平 成 ２ ２ 年 第 １ 回

芦北町議会３月定例会会議録

開会　　平成２２年　３　月　１　日

閉会　　平成２２年　３　月１２日


うたせ船

熊 本 県 芦 北 町 議 会

平成２２年第１回芦北町議会定例会会期日程

月　日	曜日	日　　程
３・　１	月	本会議（開　会）　諸般の報告 施政方針と予算大綱説明 議案審議 議案の委員会付託
2	火	本会議　　一般質問
3	水	委員会審査　総　　務（基幹支所、議会事務局、企画財政課） 建設経済（現地調査、建設課、上下水道課）
4	木	委員会審査　文教厚生（生涯学習課、福祉課） 建設経済（商工観光課、農林水産課（農業委員会））
5	金	委員会審査　総　　務（総務課、税務課） 文教厚生（教育課、住民生活課）
6	土	休　日
7	日	休　日
8	月	委員会予備日
9	火	休　会
１０	水	休　会
１１	木	休　会
１２	金	本会議（最終日）　議案審議（委員長報告） 閉会中の継続調査の申出 （閉　会）

目　　次

第１号（３月１日）　　頁

１　議事日程…… 3

２　出席議員氏名…… 4

３　欠席議員氏名…… 4

４　説明のため出席した者の職氏名…… 4

５　事務局職員出席者…… 5

６　開会　開議…… 9

日程第１　会議録署名議員の指名…… 9

日程第２　会期の決定について…… 9

日程第３　諸般の報告…… 9

日程第４　陳情第17号　県産木材の需要拡大についての要望書…… 9

日程第５　承認第１号　専決処分の承認を求めることについて
平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第８号）…… 10

日程第６　議案第１号　平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第９号）…… 11

日程第７　議案第２号　平成２１年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）…… 18

日程第８　議案第３号　平成２１年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）…… 20

日程第９　議案第４号　平成２１年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）…… 21

日程第10　平成２２年度施政方針と予算大綱説明…… 22

（一括議題＝日程第23まで）

日程第11　議案第５号　平成２２年度芦北町一般会計予算…… 33

日程第12　議案第６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算… 33

日程第13　議案第７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算…… 33

日程第14　議案第８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算…… 33

日程第15　議案第９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算…… 33

日程第16　議案第10号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算… 33

日程第17　議案第11号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算… 33

日程第18　議案第12号　平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算…… 33

日程第19　議案第13号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算… 33

日程第20　議案第14号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算…… 33
日程第21　議案第15号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算…… 33
日程第22　議案第16号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について…… 33
日程第23　議案第17号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について…… 33
日程第24　議案第18号　芦北町行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について…… 37
日程第25　議案第19号　芦北町果樹共同給水施設条例の一部を改正する条例の制定について…… 39
（一括議題＝日程第27まで）
日程第26　議案第20号　町道の路線廃止について…… 40
日程第27　議案第21号　町道の路線認定について…… 40
日程第28　議案第22号　工事請負契約の変更について…… 42
日程第29　諮問第１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて…… 43
日程第30　陳情第１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について…… 43
７　散　会…… 44

第２号（３月２日）
１　議事日程…… 47
２　出席議員氏名…… 47
３　欠席議員氏名…… 47
４　説明のため出席した者の職氏名…… 47
５　事務局職員出席者…… 48
６　開　議…… 51
日程第１　一般質問…… 51
（１）川尻成美議員第１回目一般質問…… 51
○竹﨑町長答弁…… 52
（２）川尻成美議員第２回目一般質問…… 53
○井川企画財政課長答弁…… 54
（３）川尻成美議員第３回目一般質問…… 54
○竹﨑町長答弁…… 55
（４）川尻成美議員第４回目一般質問…… 55

○竹﨑町長答弁…… 56
（５）川尻成美議員第５回目一般質問…… 56
○竹﨑町長答弁…… 58
（６）川尻成美議員第６回目一般質問…… 58
○田畑住民生活課長答弁…… 58
（７）川尻成美議員第７回目一般質問…… 59
（１）宮尾秀行議員第１回目一般質問…… 59
○竹﨑町長答弁…… 60
○井川企画財政課長答弁…… 60
（２）宮尾秀行議員第２回目一般質問…… 61
○柳田農林水産課長答弁…… 61
（３）宮尾秀行議員第３回目一般質問…… 62
○竹﨑町長答弁…… 62
（４）宮尾秀行議員第４回目一般質問…… 62
（１）岡部恵美子議員第１回目一般質問…… 63
○竹﨑町長答弁…… 64
○竹浦教育長答弁…… 65
（２）岡部恵美子議員第２回目一般質問…… 65
○坂梨商工観光課長答弁…… 65
（３）岡部恵美子議員第３回目一般質問…… 66
7　散　会…… 66

第３号（３月12日）
1　議事日程…… 69
2　出席議員氏名…… 70
3　欠席議員氏名…… 70
4　説明のため出席した者の職氏名…… 70
5　事務局職員出席者…… 70
6　開　議…… 71
（一括議題＝日程第14まで）
日程第１　議案第16号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について…… 71
日程第２　議案第17号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について…… 71
日程第３　議案第５号　平成２２年度芦北町一般会計予算…… 71
日程第４　議案第６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算… 71

日程第５　議案第７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算…… 71
日程第６　議案第８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算…… 71
日程第７　議案第９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算…… 71
日程第８　議案第10号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算… 71
日程第９　議案第11号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算… 71
日程第10　議案第12号　平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算…… 71
日程第11　議案第13号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算… 71
日程第12　議案第14号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算…… 71
日程第13　議案第15号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算…… 71
日程第14　陳情第１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について…… 71
日程第15　発議第１号　永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書案…… 85
日程第16　発議第２号　「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書案…… 86
日程第17　発議第３号　芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について…… 87
（一括議題＝日程第19まで）
日程第18　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査の申出…… 88
日程第19　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出…… 88
７　閉　会…… 88

平成２２年第１回芦北町議会定例会議事日程（第１号）

平成２２年３月１日
午前１０時　開　会
於　　議　　場

１　議事日程

開会宣告

日程第　１　会議録署名議員の指名
日程第　２　会期の決定について
日程第　３　諸般の報告
日程第　４　陳情第１７号　県産木材の需要拡大についての要望書
日程第　５　承認第　１号　専決処分の承認を求めることについて
　　平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第８号）
日程第　６　議案第　１号　平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第９号）
日程第　７　議案第　２号　平成２１年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）
日程第　８　議案第　３号　平成２１年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）
日程第　９　議案第　４号　平成２１年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）
日程第１０　平成２２年度施政方針と予算大綱説明
（一括議題＝日程第２３まで）
日程第１１　議案第　５号　平成２２年度芦北町一般会計予算
日程第１２　議案第　６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
日程第１３　議案第　７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算
日程第１４　議案第　８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算
日程第１５　議案第　９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算
日程第１６　議案第１０号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
日程第１７　議案第１１号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
日程第１８　議案第１２号　平成２２年度芦北町町有温泉事業特別会計予算
日程第１９　議案第１３号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
日程第２０　議案第１４号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第２１　議案第１５号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算

日程第２２　議案第１６号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について
日程第２３　議案第１７号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について
日程第２４　議案第１８号　芦北町行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について
日程第２５　議案第１９号　芦北町果樹共同給水施設条例の一部を改正する条例の制定について
（一括議題＝日程第２７まで）
日程第２６　議案第２０号　町道の路線廃止について
日程第２７　議案第２１号　町道の路線認定について
日程第２８　議案第２２号　工事請負契約の変更について
日程第２９　諮問第　１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
日程第３０　陳情第　１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について
（散　会）

２　出席議員（１６人）

２番　宮　内　道　則　君	３番　古　村　逸　男　君
５番　白　坂　康　浩　君	６番　草　野　安　道　君
７番　前　田　徹　一　君	８番　荒　川　臣　六　君
11番　平　松　洋　一　君	12番　市　川　信　作　君
14番　川　尻　成　美　君	15番　白　窪　　泉　君
17番　川　野　　眞　君	18番　水　口　宣　之　君
19番　大　丸　清　光　君	20番　岡　部　恵美子　君
21番　寺　本　修　一　君	22番　藤　井　公　明　君

３　欠席議員（３名）

９番　元　山　秀　志　君	10番　宮　尾　秀　行　君
13番　釜　　信　一　君	

４　説明のため出席した者の職氏名（１７人）

町　　長	竹　﨑　一　成　君	副　町　長	藤　崎　正　司　君
教育委員長	本　山　　嵩　君	教　育　長	竹　浦　裕　道　君

政策審議員兼 総務課長	内山忠美君	政策審議員兼 企画財政課長	井川良一君
田浦基幹支所長	迫本文雄君	税務課長	農中豊君
住民生活課長	田畑一實君	商工観光課長	坂梨優君
福祉課長	大岩憲治君	農林水産課長	柳田豊彦君
建設課長	竹田茂幸君	上下水道課長	山本正博君
教育課長	永田光洋君	生涯学習課長	中原豊徳君
会計管理者兼 会計室長	川尾敏浩君		

5　職務のため出席した事務局職員の職氏名（２人）

議会事務局長	福山勝廣君	次長（係長）	岡田謙治君

議 長 諸 般 の 報 告

１　例月現金出納検査結果報告書（別紙のとおり）

２　芦北町振興計画策定審議会

期　日　　平成２２年２月２日（火）

場　所　　芦北町役場会議室

議　題　　委嘱状交付及び芦北町総合計画後期基本計画（案）説明

３　芦北町行政改革推進委員会

期　日　　平成２２年２月８日（月）

場　所　　芦北町役場会議室

議　題　　委嘱状交付及び運営日程等について説明

４　熊本県町村議長会定期総会

期　日　　平成２２年２月２２日（月）

場　所　　熊本自治会館

議　題

・報告第１号　会務報告

・報告第２号　平成２１年度補正予算の報告

・認定第１号　平成２０年度歳入歳出決算の認定について

・議案第１号　平成２２年度歳入歳出予算の議決について

・議案第２号　熊本県町村議会議長会会則の一部改正について

・議案第３号　各郡提出案件の審議

・議案第４号　宣言

・議案第５号　決議

・協議第１号　実行運動方法協議

以上については、原案のとおり可決

上記のとおり報告します。

平成２２年３月１日

芦北町議会議長　　藤　井　公　明

芦町監第４７号
平成２２年２月８日

芦北町議会議長　藤　井　公　明　様

芦北町監査委員　山　下　生　吾
同　　草　野　安　道

例月現金出納検査の結果に関する報告の提出について

地方自治法第２３５条の２第１項の規定により例月現金出納検査を実施したので、同条第３項の規定により、その結果に関する報告を下記のとおり提出します。

記

１．検査の対象
会計管理者の権限に属する現金（歳計現金、一時借入金及び基金並びに歳入歳出外現金）の出納及び保管

２．検査現在期日
平成２２年２月４日

３．検査実施日
平成２２年２月８日

４．検査の結果及び意見
検査現在期日における歳計現金及び基金並びに歳入歳出外現金（一時借入金なし）の保管状況は、預金通帳、保管現金及び現金保管状況一覧表と照合した結果すべて符合し相違ないこと及び適正に処理されていることを確認した。
また、出納事務については、現金出納にかかる証拠書類及び関係帳表と照合、検査の結果、計数に誤りはなく何ら不正非違の点も見受けられず、すべて適正に処理されていることを認めた。
なお、参考まで検査現在期日における現金の現在高は、次のとおりである。

一般会計・特別会計	歳計現金	957,228,965　円
	一時借入金	0　円
	基金に関する現金	3,462,000,267　円
	歳入歳出外現金	85,113,276　円
	計	4,504,342,508　円
水道事業会計		203,104,523　円

平成２２年第１回芦北町議会定例会請願・陳情文書表

受理年月日 番　号	住　所	氏　　名	要　　旨	所管委員会
H22.1.15 陳情第１号	芦北町大字 道川内102	代表 道川内西行政区長 立丸一廣	道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について	建設経済 常任委員会

開会　午前１０時００分

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

◯議長（藤井公明君）　おはようございます。

ただいまから平成２２年第１回芦北町議会定例会を開会します。

宮尾君、釜君、元山君から欠席届が出ております。

これより本日の会議を開きます。

お手元に配付の議事日程にしたがって会議を進めてまいります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第１　会議録署名議員の指名

◯議長（藤井公明君）　日程第１「会議録署名議員の指名」を行います。

本定例会の会議録署名議員は、会議規則第１１６条の規定により、１７番　川野君及び１８番　水口君を指名します。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第２　会期の決定について

◯議長（藤井公明君）　日程第２「会期の決定について」を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、先に開催されました議会運営委員会において、３月１２日までとの答申をいただいております。本日から３月１２日までの１２日間にしたいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

◯議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、本定例会の会期は、本日から１２日までの１２日間に決定いたしました。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第３　諸般の報告

◯議長（藤井公明君）　日程第３「諸般の報告」を行います。

例月現金出納検査結果及び閉会中に出席した議長の諸般の報告内容はお手元に配付のとおりです。

以上で諸般の報告を終わります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第４　陳情第１７号　県産木材の需要拡大についての要望書

◯議長（藤井公明君）　日程第４、陳情第１７号「県産木材の需要拡大についての要望書」については、１２月議会定例会において、建設経済常任委員会の閉会中の継続審査としております。

それでは、建設経済常任委員長に報告を求めます。荒川君。

◯建設経済常任委員長（荒川臣六君）　おはようございます。

建設経済常任委員長報告を申し上げます。

１２月定例会において、当委員会に付託されました陳情１件について、２月３日に担当課出席の下、詳細に審査を行いましたので、その経過と結果について御報告申し上げます。

陳情第１７号、「県産木材の需要拡大についての要望書」について申し上げます。本件は、県産材需要拡大県民運動推進会議会長・蒲島郁夫氏と、水俣芦北地域木材需要拡大協議会会長・小﨑修市氏から提出されたものですが、県産木材を生かした建築物の木造化及び木質化の促進等を要望するものです。

主な質疑を申し上げますと、町内の製材業者の現状はどうかとの質疑に対し、九州内をメインに関西方面への流通もあるが価格も安く厳しい状況であるとの説明がありました。質疑終了後は討論もなく、陳情第１７号につきましては、全会一致で採択すべきものと決しました。

以上で、建設経済常任委員会に付託されました陳情第１７号の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（藤井公明君）　委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を一括して行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

陳情第１７号について、討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから陳情第１７号を採決します。お諮りします。委員長報告は採択です。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、陳情第１７号は委員長報告のとおり採択することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第５　承認第１号　専決処分の承認を求めることについて
平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第８号）

○議長（藤井公明君）　日程第５、承認第１号「専決処分の承認を求めることについて」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。井川企画財政課長。

○企画財政課長（井川良一君）　おはようございます。よろしくお願いいたします。

それでは、承認第１号、専決処分の承認を求めることについて、平成２１年度芦

北町一般会計補正予算（第８号）を１月１９日付けで、地方自治法第１７９条第１項の規定に基づき専決処分しましたので、その内容を説明し、承認をお願いするものであります。

補正は、２，０４９万５，０００円を追加し、総額を１１２億１，４２４万８，０００円といたしました。

今回の補正の内容は、渇水に伴う溜池電気料の農林水産業費及び御立岬温泉センター温泉井改修の商工費です。

それでは、歳出から説明します。

予算書の７ページをお開きください。

款５農林水産業費です。新幹線渇水被害恒久対策費６５万円は、５月から７月にかけて予想以上の渇水があり、それに伴う溜池の電気料です。

款６商工費です。御立岬公園費の１，９８４万５，０００円は、御立岬温泉センターの温泉井戸ポンプ故障による工事請負費です。

詳細については、自席に配付しております資料１ページをご覧ください。

次に、歳入については６ページです。

地方交付税及び九州新幹線渇水等被害対策基金繰入金を充てております。

以上で報告を終わります。

御承認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから承認第１号を採決します。お諮りします。本案は承認することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、承認第１号は承認することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第６　議案第１号　平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第９号）

○議長（藤井公明君）　日程第６、議案第１号「平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第９号）」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。井川企画財政課長。

○企画財政課長（井川良一君）　議案第１号、平成２１年度芦北町一般会計補正予算（第９号）について説明します。

今回の補正は、予算の総額に歳入歳出それぞれ５億３，３５８万９，０００円を追加し、総額１１７億４，７８３万７，０００円といたしております。

補正の主な内容は、国の２次補正によります地域活性化・きめ細かな臨時交付金を活用した事業の計上、公共投資臨時交付金及び強い農業づくり交付金事業の増額と、国県支出金等を伴う各種事業の実績見込みによる減額であります。

第２条で繰越明許費の補正を、第３条で継続費の補正を、また第４条で地方債の補正を行っています。

まず、地域活性化・きめ細かな臨時交付金について、お手元の資料で説明いたします。

資料の２ページをお願いいたします。

交付金創設の経緯、概要は、１、２に記載しているとおりです。

国の２次補正における地方対策として創設されており、対象となる事業は平成２２年の１月１日以降に予算化されたものです。本町の交付予定額、活用事業については、３をご覧ください。交付予定額は１億７，３１０万６，０００円です。これに対しまして、今回の３月補正で２億２０１万円計上いたしております。地域インフラの整備で、町道の舗装改良、橋りょう維持補修及び教育環境の整備に措置しております。

それでは、お手元に配付しています一般会計補正予算説明資料により、歳出の方から説明をいたします。

予算書は１１ページから１５ページにかけて、資料は２ページからです。なお、内容の欄で網かけをしているものについては、先ほど説明しました地域活性化・きめ細かな臨時交付金事業です。

まず、款２総務費です。一般管理費の１，２８３万１，０００円は、勧奨退職者の退職手当組合特別負担金です。

高速交通対策費の３９万５，０００円は、地方バス運行対策費補助金で、運行収入の減により措置するものです。

款３民生費です。社会福祉施設費の１０８万９，０００円は、老人ホームの宿日直手当の見直し及び一般寄付に伴う備品購入費です。

高齢者福祉費の７７万２，０００円は、転居に伴う老人保護措置費委託料です。

後期高齢者医療費の１５万４，０００円の減額は、前年度繰越金確定による事務費繰出金の補正です。

児童福祉総務費の１５０万円は、病後児保育施設の保育室改修等に対する感染症対策事業補助金です。

児童措置費の３２７万６，０００円は、子ども手当が平成２２年４月から施行されることに伴う電算システム改修費です。

款４衛生費です。保健衛生総務費の１６４万１，０００円の減額は、吉尾診療所の診療体系の変更による国民健康保険事業特別会計（直診勘定）への繰出金です。

環境衛生費の２６万７，０００円は、火葬場使用料の減による水俣芦北広域行政事務組合負担金です。

生活排水対策事業費の２３万２，０００円の減額は、実績見込みによる浄化槽設置整備事業補助金です。

塵芥処理費の８２１万３，０００円の減額は、契約実績による湯浦地区ごみ収集運搬業務委託料です。

３ページです。

款５農林水産業費です。農業振興費の４億４，９３９万７，０００円は、強い農業づくり交付金のライスセンター及び選果機整備に対する補助金で４億５，２６０万４，０００円、果樹共同給水施設管理組合運営費補助金ほかで１１万８，０００円の増額補正と、園芸新たな挑戦強化対策事業補助金ほか、実績により減額補正です。

ライスセンター及び選果機整備に対する補助金は、９月補正で国の補助率２分の１分を歳入歳出同額で計上しておりますが、今回、県の補助、地域活性化公共投資臨時交付金の確定により、町の補助を含めて計上するものです。詳細については、資料の３ページをご覧ください。

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業費の９３５万５，０００円の減額は、デコポン無加温ハウス設置事業の実績によるものです。

林業振興費の５，０７０万円の減額は、緑の産業プロジェクト促進事業補助金で、国の予算凍結に伴い事務手続きが一時停止されたこと、及び景気低迷により事業主体からの申請取下げによるものです。

漁港建設費の４，９９７万５，０００円の減額は、海浦漁港改修工事で、浮き桟橋の資材価格の変動及び入札残です。

款６商工費です。芦北海浜総合公園管理運営費の３４４万円の減額は、人件費の実績見込みによる施設管理運営費委託料です。

款７土木費です。土木総務費の１，８１１万円の減額は、御立岬土地活用事業費で、計画運搬土量の減少による機械借上料と造成工事費です。

次の道路新設改良費は、１３ページから１４ページとなります。

道路新設改良費の６，５５９万３，０００円は、きめ細かな臨時交付金で対応しま

す。

道路舗装局部改良事業費の新規計上と単県道路改良、側溝整備の事業費変更による増額補正と、単独で計上しておりました花東本町線の土地購入費を平成２２年度から補助事業で行うため、今年度分を減額する補正、及び政権交代に伴い事業実施の不透明等により、射場芦北線の委託料を減額する補正です。

４ページです。

橋りょう維持費の５，７７０万円は、きめ細かな臨時交付金で対応します。

測量業務委託料及び工事請負費です。砂防費の１，０５５万円の減額は、急傾斜地崩壊対策事業費負担金で、事業費変更によるものです。

款９教育費です。教育指導費の１３３万円の減額は、小中学校ＩＣＴ導入に伴い、教員のサポート支援を行う労働者派遣委託料で、国の１次補正予算の見直しに時間を要し、機器の設置が年度末まで要するためです。

小学校管理費の３，０６３万９，０００円は、きめ細かな臨時交付金で対応します。

環境整備の工事請負費及び事業費の増減変更による田浦小学校ほかの耐震改修工事費です。

中学校管理費の６，３８３万円は、小学校費同様の環境整備及び実施設計完了に伴う湯浦中学校太陽光発電設備設置工事費の増額と、大野、湯浦中の前倒し実施するための耐震工事管理業務委託料及び事業費の増減変更による田浦中学校ほかの耐震改修工事費です。

次に、歳入について主な説明を説明いたします。

予算書は９ページから１０ページになりますが、資料は１ページにまとめておりますので、資料によって説明をいたします。

まず、国県支出金は１６件で５億５，６６５万８，０００円です。

主なものは、子ども手当準備事業費補助金、安全・安心な学校づくり交付金、これは耐震工事費です。及び地域活性化公共投資臨時交付金、これは耐震工事費と選果機、ライスセンター、循環型浄化槽設置工事費です。きめ細かな臨時交付金及び強い農業づくり交付金、これは選果機、ライスセンター分です。以上の事業実績見込みによる増減を行っています。

地方債は、海浦漁港改修事業債で１，６６０万円の減額です。起債対象事業費の減により調整したものです。

その他の２２万８，０００円は、事業費の増減により負担金を調整したものです。

一般財源の６６９万７，０００円の減額は、法人町民税の減額を普通交付税、特

別交付税、一般寄付で調整したものです。

次に、繰越明許費補正について説明します。

予算書の４ページ、第２表をご覧ください。

款２総務費の公用車購入事業ほか２３事業で、１６億5,１８１万5,０００円を追加しています。

主な繰り越しは、国の経済対策の補正に伴う事業で、強い農業づくり交付金で行います選果場整備の事業と地域活性化公共投資臨時交付金事業、きめ細かな臨時交付金事業、安全・安心な学校づくり交付金事業で行います小中学校耐震工事等です。

次に、継続費補正について説明します。

予算書の５ページ、第３表をご覧ください。

款４衛生費の清掃センター芦北事業所解体整備事業で、総額を3,３７９万7,０００円減額し、３億2,４９９万4,０００円とし、平成２２年度年割額を２億3,８９５万1,０００円に変更しております。

最後に、地方債補正について説明します。

予算書の６ページ、第４表をご覧ください。

海浦漁港改修事業債の減額により、農林水産施設整備事業の限度額を１億2,９９０万円に変更しています。起債の方法、利率の償還の方法については、記載のとおりであります。

以上、説明をいたしました。御審議の上、御議決いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。前田君。

○７番（前田徹一君）　３点ほど、一つは繰越明許費なんですけれども、ちょっと説明を今聞いたところ、だいたい納得しておりますけれども、ちょっと多いなあというところで、ちょっと私に理解できないのが公用車の購入事業とか、芦北町の木材住宅建設支援事業、これをちょっと詳しく説明願いたいと思います。

あと、１１ページの児童措置費の子ども手当システム改修委託料ですね。これは４月から稼働するということですけれども、実際、子どもさんに手当がいくのは何月ぐらいからかなというふうにお伺いしたいと思います。

あと一つは、１２ページの塵芥処理費ですね。これは８２０万円ほど減額になっておりますけれども、これはごみが減ったというふうに理解してよろしいんでしょうか。お願いいたします。

○議長（藤井公明君）　内山総務課長。

○総務課長（内山忠美君）　繰越明許の公用車購入の件でございますが、これにつきましては、平成２１年８月１１日に町内業者を指名いたしまして、入札を実施しております。契約が同８月の１２日に実施しまして、当初は３月末に納車ということで見込んでおりましたが、業者の方の車種の需要に対しまして、生産の供給が追いつかないということで、納品が５月にずれ込むということでございますので、今回、繰り越しをお願いしたところでございます。車種はプリウスでございます。

よろしくお願いいたします。以上です。

○議長（藤井公明君）　柳田農林水産課長。

○農林水産課長（柳田豊彦君）　芦北町木造住宅建築支援事業の繰り越しにつきましては、現在、申請が上がっておらず、計画中でですね、３月中に申請を上げるという相談があっている件数がまだございますので、その分を見越して繰り越しをしているということでございます。

以上です。

○議長（藤井公明君）　大岩福祉課長。

○福祉課長（大岩憲治君）　子ども手当の支給についてですが、６月の支給から始まります。ただし、２月、３月分については、もとの児童手当の額、４月、５月分が１万3,０００円というふうになっております。６月からでございます。

以上です。

○議長（藤井公明君）　田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　塵芥処理費の８２１万3,０００円の減につきましては、湯浦地区のごみ収集運搬業務の委託をする際の入札残でございます。

よろしくお願いします。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。川尻君。

○１４番（川尻成美君）　少し関連しますけれども、前田議員のやつと、繰越明許の方でですね、この性格から見て、国の２次補正とか、また新たな事業に対してのこととか、非常にいい面の繰り越しもございますけれども、土木費におきましては、当初予算に組まれたのが事業の変更によって、こういう形になったのもありますけれども、非常に多いわけで、いつもこういう形があるわけですけれども、この進捗状況というのはどういうふうになっておりますでしょうか。道路橋りょうの方ですね。それが１点と、そして同じく土木費の中に、工事請負費の中で御立岬の残土処理、造成場の１,６００数万円の減額があります。この状況においては、いろいろ聞かされるんですけれども、今、西回りの高速道路等がありまして、そこに残土といいますか、それを捨てるような計画になっていたんですけれ

ども、捨てられないようになったということがあって、人吉の方面に持っていく状況も今ありますし、なぜ予定されたところに捨てることができなくなったのかなというふうに思いますし、持ち込みが減という説明があったのは、ちょっと違うんじゃないかなあと私は思って、捨てることができなくなったんじゃないかなあというふうに思いますが、この点を具体的にお願いしたいというふうに思います。

また、農林水産業費において、９３５万５，０００円の支援交付金が減額になりましたけれども、これは実績といいますか、こういう形で減額になったのか、こういう国の施策による補助金等は非常に有効に生産者、経営者に配分といいますか、そういうことに努力をされておると思いますけれども、その具体的な理由の方もお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　御質問の第１点でございます道路橋りょう費についての繰り越しが多いということでございますけれども、先ほどの説明もございましたように、第２次補正が大部分でございますけれども、ほかに工事が進んでないものは、特に用地交渉が進んでない部分がほとんどでございます。

それから、第２点で、土捨場の件でございますけれども、当初予定しておりました分が国土交通省の分、それから広域農道の分、県の地域振興局の分、これはダム関係の処理でございますけれども、これを適当に配分しておりましたけれども、そのうちの一部分についてが既定の要望されておりまして、それをうちの方で考えておりました分が減ったと。約１万立米の減でございました。

以上が主なものでございます。

○議長（藤井公明君）　柳田農林水産課長。

○農林水産課長（柳田豊彦君）　農林水産課関係の減額について申し上げますが、これはデコポンのハウスに対する支援が大きいんですけれども、計画者の方が道路の改良にかかって、その予定していた場所が道路の改良にかかってですね、面積を少なくせざるを得なくなったというのが主な理由でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　今、２点については了解しました。

御立岬の残土処理については、１万立米ほどが減ったということですけれども、まだ容量はあるということですか、捨てる容量はあるということですか。そうであれば、もっとその西回り高速においての、今掘削している処理は受け入れというのは、態勢はどんなふうになりますか。ちょっと話が私、違うように聞いております

けれども。

○議長（藤井公明君）　竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　今年予定しておりました分、２１年度で予定しておりました分が予定に達したということで、２２年度以降につきましては、調整しながら、まだ受入可能でございます。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第７　議案第２号　平成２１年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）

○議長（藤井公明君）　日程第７、議案第２号「平成２１年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号)」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　議案第２号、平成２１年度芦北町国民健康保険事業特別会計補正予算（第３号）について御説明いたします。

今回の補正は、事業勘定の歳入歳出予算にそれぞれ２，７５６万３，０００円を追加し、総額を３３億２，１９１万２，０００円に、直営診療施設勘定の歳入歳出予算にそれぞれ１００万６，０００円を減額し、総額を５，３２３万円とするものでございます。

事業勘定の歳出から御説明いたします。

１１ページをお開きください。

款の１総務管理費の印刷製本費７万８，０００円と、郵便料４９万４，０００円につきましては、制度改正に伴う啓発用パンフレット及び郵送用封筒代並びに郵送料でございます。

款の２保険給付費の一般被保険者療養給付費２，６７４万８，０００円につきまし

ては、給付見込みの増加に伴い増額するものでございます。

款の９保険事業費の消耗品費２４万３，０００円につきましては、医療費抑制対策として配布しますジェネリック医薬品利用促進カードケース代金です。

次に、歳入につきまして１０ページをご覧ください。

款の３国庫支出金、普通調整交付金９０９万４，０００円につきましては、一般被保険者療養給付費の増加に対する定率の国庫補助の増額分でございます。

同じく特別調整交付金２４万３，０００円につきましては、医療費抑制対策として配布するジェネリック医薬品利用促進カードケース代金の全額補助分です。

同じく特別対策費補助金５７万２，０００円につきましては、制度改正に伴う啓発用パンフレット代、郵送代等の全額補助分です。

４款県支出金、都道府県財政調整交付金１８７万２，０００円につきましては、国庫分と同様、一般被保険者療養給付費の増加に対する定率の県補助の増額分です。

款の１０繰越金１，５７８万２，０００円につきましては、残りの財源を繰越金で補うものです。

次に、直営診療施設勘定につきまして、歳出の１３ページをお開きください。

１総務費の報償費の臨時医師謝金２５５万円の減額につきましては、診療日数の減に伴い、実績見込みで減額するものです。

２医業費の医薬材料費１５４万４，０００円につきましては、新型インフルエンザのワクチン、検査キット、治療薬等の購入に伴う増額分です。

歳入につきましては、１２ページになります。

４繰入金の一般会計繰入金１６４万１，０００円の減につきましては、歳出で減額になる財源を繰入金で調整するものです。

諸収入の予防接種委託料６３万５，０００円につきましては、新型インフルエンザワクチンの予防接種に係る費用を増額するものでございます。

以上で説明を終わります。よろしく御審議いただきますようお願いします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。前田君。

○７番（前田徹一君）　１点、お伺いしたいと思います。

直診勘定の方なんですけれども、臨時となっておりますけれども、正職の方はおられないんでしょうか。

○議長（藤井公明君）　田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　医師につきましては、昨年の９月から、松本先生の方が体調不良で休みになりました。その後、１０月以降、熊大と公立多良木病院、そ

して松本先生の息子さん、先生の方、３人で診療しているところでございます。現在、医師確保につきましては、熊本県データバンク、それと自治医大の募集をかけておりますが、なかなか難しい状況でございまして、臨時的な対応をとっております。

以上です。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はございませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第８　議案第３号　平成２１年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）

○議長（藤井公明君）　日程第８、議案第３号「平成２１年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号)」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。山本上下水道課長。

○上下水道課長（山本正博君）　おはようございます。よろしくお願いいたします。

議案第３号、平成２１年度芦北町農業集落排水事業特別会計補正予算（第１号）について御説明いたします。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額から、それぞれに６，９９９万９，０００円を減額し、予算の総額を２億２，８７０万１，０００円にするものであります。

今回の補正の理由は、南九州西回り自動車道工事に伴う芦北インター沿いの花岡浄水場前、県道宮崎芦北線の切回し工事が平成２１年度に計画されていたために、国土交通省と協議のもとに、当県道に埋設された農業集落排水管を切り回した後の県道に移設する工事を、国土交通省の全額補償で予算の計上をしていましたが、国土交通省の都合により、県道切回し工事の平成２１年度着工が延期となり、また次年度においても着工の目途が立っていないことから、未施工により減額するものであります。

なお、この移設工事につきまして、既に設計業務委託しました費用につきましては、本年１月の国土交通省の協議の結果、平成２１年度中に補償金として全額を負担していただくことになっています。

それでは、予算書の７ページをお開きください。

歳出から御説明いたします。

目４花岡東地区農業集落排水施設管理費の６，９９９万９，０００円の減額のうち、委託料の１４４万９，０００円の減額は、当地区の配水管の移設工事につきまして、設計業務委託の入札を行いました入札残でございます。

工事請負費の６，８５５万円の減額は、先ほど説明しました理由により、配水管の移設工事の未施工によるものでございます。

続きまして、６ページの歳入を御説明いたします。

目１雑入の６，９９９万９，０００円の減額は、先ほど歳出で説明しましたように、配水管の移設工事の未施工により、国土交通省からの移設補償金６，８５５万円の減額と、先ほど歳出で説明しました委託料の入札により１４４万９，０００円の減額に伴い、国土交通省からの設計業務委託料の補償金１４４万９，０００円の減額によるものでございます。

以上で説明を終わります。議決いただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第３号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第３号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第９　議案第４号　平成２１年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）

○議長（藤井公明君）　日程第９、議案第４号「平成２１年度芦北町後期高齢者医療事

業特別会計補正予算（第２号)」を議題とします。

本案について提案理由の説明を求めます。田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　議案第４号、平成２１年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第２号）について御説明いたします。

今回の補正は、歳入歳出予算にそれぞれ３３万５，０００円を追加し、総額を２億４，３９３万６，０００円とするものでございます。

歳入につきまして、６ページをお開きください。

平成２０年度後期高齢者医療保険料の滞納繰越分確定に伴う３３万５，０００円の増額、及び前年度繰越金の確定に伴う一般会計事務費繰入金１５万４，０００円の減額と、同額の繰越金を増額する補正でございます。

歳出につきましては、７ページをお願いいたします。

款２、後期高齢者医療広域連合納付金３３万５，０００円は、歳入の保険料滞納繰越分同額を広域連合へ拠出する補正でございます。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第４号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第４号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１０　平成２２年度施政方針と予算大綱説明

○議長（藤井公明君）　日程第１０「平成２２年度施政方針と予算大綱説明」を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　平成２２年第１回芦北町議会定例会の開催にあたり、町政運営の基本的な考え方と予算の大綱について説明申し上げます。

合併から５年を経過し、現在まで合併のメリットを最大限に生かし、町政運営を誠実、公正な立場に立って努力を傾注してまいりました。

その間、議員各位をはじめ町民の皆様、そして関係機関の方々に温かい御理解とご協力を賜り、お陰をもちまして町政が順調に進展しておりますことに対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

社会情勢と芦北町の状況について、概要を申し上げます。

現在の日本経済は、高い失業率や下落傾向にある物価水準など、依然として厳しい情勢にあります。先行きも、雇用環境の一層の悪化や円高、デフレによる景気抑制圧力などの懸念材料が存在し予断を許さない状況にあります。

昨年誕生した新政権は、「コンクリートから人へ」や「地域主権」を掲げ、平成２２年度予算を、右肩上がりの経済成長を前提とした従来型の資源配分や行政手法を転換し、経済社会の構造や重視すべき価値を変え、国民生活に安心と活力をもたらす第一歩の予算としております。

平成２２年度の地方財政計画は、地方税の大幅な歳入減が見込まれる中で、歳入面では地方交付税や臨時財政対策債の増額確保、歳出面では地域活性化・雇用等臨時特例費の創設等により、その規模を維持する内容となっており、一定の評価はできますが、本町の進める補助事業についても予算の削減が行われており、新政権の動向は今後も注視していく必要があります。

本町においては、これまでの行政改革の取り組みを継続し、健全財政を維持しながら、町の基本理念に従い、必要な事業について、効率的・重点的に実施してまいります。

芦北町のまちづくりは、芦北町総合計画において「個性の光る活力あるまちづくり」を基本理念とし、「すべては２１世紀を担う子どもたちのために」をテーマとした施策を展開しております。なお、平成２２年度は、総合計画後期基本計画の初年度となっております。

後期５か年間の計画が着実に実施できるよう、計画の適正な管理及び進捗状況の把握に努めます。

平成２２年度一般会計予算総額は、前年度当初比０．１％増の９４億５，５００万円を措置しました。

子ども手当の創設や障害者福祉費の増加などにより扶助費が大幅に伸びるなかで、人件費や公債費等の経常的経費は減額しております。

普通建設事業費については、地域活性化センター整備事業や合併前から継続しておりました海浦漁港の整備事業が終了したことから減額となっておりますが、先ほど補正予算で御議決いただいた事業の前倒し分等を含めますと必要額を確保しております。

また、持続可能な財政運営を行っていくため、新たな基金を積み立てる予算も計

上しております。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする９特別会計の合計は５９億２，５７０万円となり、これらと公営企業会計である水道事業の予算３億６，５２９万７，０００円を合わせた平成２２年度の芦北町の予算規模は、１５７億４，５９９万７，０００円となっております。

一般会計の財源の主なものを申し上げます。

町民税におきましては、平成２０年秋口の世界不況以来、企業の景気回復の兆しは見受けられず、個人消費の低迷等、経済動向は厳しい状況にあり、個人及び法人町民税合わせた税額は、平成２１年度当初予算より８，５０９万７，０００円の減額を見込んでおります。

また、固定資産税につきましては、前年と同額程度の予算を見積もりました。このようなことから、町税全体で平成２１年度当初予算より８，７２８万８，０００円の減額となり、総計で１４億６，７１６万７，０００円を見込んでおります。

地方交付税は、地方財政計画の中で、既定の加算とは別に約１兆円増額されたことにより、２．３％増の４４億円を見込んでおります。

町債は、普通交付税の振り替え分として、臨時財政対策債を１億８８５万円増の５億４，７００万円措置しておりますが、元金償還額の範囲内である８億８，７９０万円にとどめ、後年の財政負担に配慮しております。

以下、平成２２年度当初予算案に盛り込みました施策の概要について、総合計画に定めた６つの柱ごとに具体的な取り組みを述べさせていただきます。

まず、「魅力的な地域づくりについて」であります。

「ふるさとづくり基金運用事業」により、魅力的な地域を創造する人材育成を図るとともに、まちづくり団体への活動支援を行ってまいります。

また、定住促進を図るため、結婚支援に関する事業を進めてまいります。

生涯学習の充実では、多様化する学習ニーズに応えるため、町民講座や平成生き生き大学を開催し、多くの町民が参加することで、心豊かな社会の実現を目指します。

星野富弘美術館は、芸術・文化の発展はもとより、心の教育に資する施設として、常設展及び公募展のほか特別に原画展を開催し、これまでに約３万７，０００人の来館者に感動と勇気を与えており、今後も親しまれる施設を目指します。

次代を担う子どもたちの健全な心身発達の一助に資するため、子ども講座、青少年主張発表会を開催し、さらに地域社会と学校の有機的な連携により、放課後子ども教室推進事業及び学校支援地域本部事業を引き続き実施し、子どもの安全で安心な活動拠点整備を図るとともに、地域の教育力向上を目指します。

また、みんなが主役のまちづくりを推進していくために、地域の特色を活かした創造性豊かな自治公民館活動の活性化を促進するとともに、個性あるまちづくりを目的とした地区住民の主体的な活動を支援する「芦北町まちづくり支援事業」を引き続き実施します。

一方、芦北町の情報公開については、広報あしきた、まちだよりやホームページなどで、町民にあらゆる情報を提供するとともに、パブリックコメント（町民意見の募集）制度を活用し、引き続き情報の透明化・共有化を進め、町民との協働のまちづくりを推進してまいります。

男女共同参画事業については、平成２０年度に策定しました芦北町男女共同参画計画に基づき、各種施策に反映し、その推進を図ってまいります。

次に、「人にやさしい快適なまちづくりについて」であります。

保健事業については、医療費抑制のための予防活動・健診体制及び健診内容を充実し、受診率の向上のための健康づくり教室や健康セミナーの開催等、「自分の健康は自分で守る」という、住民の健康に対する意識づけを図るための支援体制を整備します。

平成２２年度は従来どおり各種検診等を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めます。さらに、検診の精度を高めるため、乳ガンのマンモグラフィー検診を導入します。また、骨粗鬆症検診の対象年齢を７０歳まで拡充します。

高齢者福祉については、高齢者が安心して健康で明るい生活が送れるよう各種在宅福祉サービスの充実と行政・高齢者福祉施設・地域住民の連携による支援体制を強化してまいります。

なお、老人ホームの民営化につきましては、芦北町老人ホーム民営化検討委員会において民営化基本方針の検討を進めており、その結果を踏まえ、よりよい養護を目指して具体的に事務を進めてまいります。

障害者福祉については、引き続き障害者自立支援法に伴う各種事業の展開に併せて、障害者自立支援法を円滑に実施するための特別対策事業を新規に活用し、より質の高いサービスの提供及び障害者の社会参加、就労支援の促進を図ります。

児童福祉については、次世代育成支援行動計画に基づき、子育て支援センターや学童保育の充実とともに、子ども手当の支給、保育所運営費に対する措置及び子ども医療費等、子育て支援を図ります。

社会福祉については、地域福祉計画に基づき、住民が安心して生活できる環境整備の一環として補助事業を活用し、全町災害時における要援護者への図上訓練を地域住民とともに随時取り組んでまいります。

また、平成２２年度においては、（仮称）女島活力推進センター建設に伴う実施

設計業務を行います。

防犯・防災対策については、近年、子どもや老人等が犠牲となる痛ましい事件が全国各地で発生しており、犯罪を未然に防ぎ、併せて災害時の初動体制を強化するため、防犯パトロール隊や自主防災組織等を充実するとともに、消費者被害の未然防止やトラブル解決のため、関係機関との連携を図り、住民の安全・安心に努めてまいります。なお、平成２２年度も引き続き、熊本県警職員の派遣をお願いし、人事交流を図ってまいります。

また、災害等緊急時における危機管理や行政情報伝達の一元化を図るべく、防災行政無線施設の効果的な運用を実施し、住民の福祉の増進に努めてまいります。

水防対策については、平成２１年度に引き続き、湯北地区強制排水施設の電気・機械・建築及び幹線管渠工事を実施します。また、白岩、計石地区においては、それぞれ１か所ずつ強制排水施設を建設し浸水被害の解消を図ります。

消防体制については、常備消防の支援を行うほか、サラリーマン団員の増加によって、昼間の消防力が低下していることを踏まえ、新たに機能別団員制度を導入し、さらなる充実を図ります。また、防火水槽５基を設置するなど施設・設備の強化も引き続き図ってまいります。

生活排水対策は、浄化槽設置の推進を柱に、積極的な取り組みを行います。

ごみ処理対策については、快適な住環境の確保と自然環境にやさしい循環型社会の形成を目指し、分別による資源ごみのリサイクルの推進とごみの減量化を推進します。

平成２２年度は、清掃センター芦北事業所解体整備工事によりストックヤードが完成しますので、清掃センター業務の一元化に向けた、より効果的・効率的な業務体制の推進を図ります。

また、生ごみ処理機の導入やごみ収容器設置等に対する補助事業を引き続き実施します、

公営住宅については、湯南団地の外壁屋根、駐車場修繕及び駅前団地の避難ハッチ取替修繕等を実施し環境整備を図ります。

次に、「生きがいのある働き場づくりについて」であります。

芦北町の基幹産業である農林水産業は、全国的にも問題となっている「耕作放棄地対策」や「鳥獣害対策」をはじめとして、「高齢化対策」「担い手対策」等、一朝一夕に解決できない課題があり非常に厳しい状況です。

農業は、甘夏に替わり果樹産地としてその先頭に立ってきたデコポンは低迷傾向にあり、産地化が期待される新品種柿太秋も２１年産は苦戦しました。

食肉の価格においても同様で、あしきた牛もその例外ではありませんでした。

一方、農地法が昨年６月に改正され１２月１５日から施行されました。

農地を「守る」観点から「利用する」観点へ大きく舵が切られ、一定の条件を満たせば一般の法人が農業に参入できる仕組み等が創設されました。

そのような中で、平成２２年度は、課題解決のため中山間地域等直接支払制度や鳥獣害対策などの事業を拡充継続してまいります。

町の特産品対策事業として、デコポンの高接ぎ樹を計画的に苗木に切り替えるための事業を開始します。また、遊休農地を利用した繁殖牛の放牧事業を開始し、生産から肥育まで管内一貫体制の整備を進めるとともに耕作放棄地解消につなげてまいります。

また、戸別所得保障制度モデル対策が開始されますので、稲作農家の混乱を生じさせないよう取り組んでまいります。

その他、平成２１年度に行っています農地実態調査を踏まえた、農家の意向調査を実施し、農地の有効利用につなげてまいります。

また、広域農道や七浦地区整備事業など県営事業については負担金を措置し事業の進捗を図ります。

農業委員会が行う耕作放棄地対策としては、特定農地貸付事業を八幡地区で行うこととしています。

林業関係では、有利な補助金や交付金を活用しながら森林組合を中心とした事業を行います。平成２１年度から町有林の管理を農林水産課の所管としましたので、これまでの財産管理という観点を守りながらも、将来的には林産物の生産にも力を入れる必要があると考えています。

芦北町木造住宅建築支援事業は、平成２２年度も継続することとしています。

水産業関係では、新規導入として熊本県が普及を目指している「熊本オイスター」の試験的養殖に取り組むこととしています。

牛の水漁港整備事業は、平成２３年度の着工に向けて実施設計を行います。

商工業振興事業については、平成２２年度も中小企業者に対し特別小口資金保証制度、地場産業振興対策資金融資制度の斡旋を行うとともに、中小企業信用保証料補給補助金等を交付します。また、芦北町商工会の安定的な運営財政基盤の確立のため、商工業振興事業補助金やプレミア付商品券発行補助金等を措置し、商工業の振興を図ります。

企業誘致については、女島埋立地と工場適地の指定を受けている見附地区や町有地の再利用を目的として、関係機関と連携を図りながら、県内外への企業誘致活動に努めてまいります。また、経済情勢の悪化による離職者等への就業の機会を提供する、特別雇用対策事業を引き続き実施してまいります。

観光振興事業については、西回り自動車道の芦北インターが開業し、今後も交流人口の増加が見込まれることから、更なる観光資源のＰＲと歴史・文化を加えた新たな観光ルート開発に努め、観光の振興を図ります。また、芦北町を代表する観光うたせ船については、観光協会、観光うたせ組合と連携し、特別乗船キャンペーンを開催し、修学旅行の誘致に努めてまいります。

観光イベントとして、ビーチバレーインくまもと大会や御立岬ビーチサッカーフェスティバル、うたせマラソン大会など、町を代表するイベントを引き続き開催し、交流人口の増加を図ります。

また、御立岬公園・芦北海浜総合公園は県外からの誘客が見込める施設であり利用環境の整備を図り、本町観光の中核施設として適正管理に努めるとともに、積極的にＰＲ活動を行い、誘客の増加に努めてまいります。

次に、「豊かな心の人づくりについて」であります。

芦北町教育理念「温故創新」のもと、児童生徒の将来を見据えたときに学力の向上が喫緊の課題であります。そのため「合格する」という成功体験を積み重ねて学習意欲を高め、将来の目標に向かって着実なステップアップを図るため、生徒の英語検定料を引き続き助成してまいります。

就学援助対策としましては、準要保護児童生徒の就学援助費、特別支援教育就学奨励費及び遠距離通学費補助金を措置し、保護者の経済的負担の軽減を図り、教育の機会均等に努めます。

また、社会問題となっているいじめや不登校問題などに対処するため、教職員・保護者・地域住民が一体となり、スクールカウンセラーや心の教室相談員を活用し、早期発見、早期解決に努め、生命の尊重と公共心の向上を図り、心の教育に取り組んでまいります。

さらに、特別支援教育では、非常勤職員の配置を拡充することにより、学習支援を必要とする児童・生徒が自立するための教育的ニーズに応え、その可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善または克服する手だての充実を図ります。

学校教育の充実に向けては、児童生徒の学習意欲の喚起とともに、教師が子どもたちと向き合う時間を確保するため、電子黒板や校務用パソコンなどのＩＣＴ機器の活用支援を行うとともに、平成２４年度から始まる武道の必須化に向け、平成２２年度から計画を進めてまいります。

学校給食センターにおいては、衛生管理に優れた学校給食共同調理場の実施設計に着手します。

国際社会で活躍できる人材の育成に向けては、引き続き英語指導助手を３名配置し、実践的英語力とコミュニケーション能力の向上を目指した英語教育を推進して

まいります。

スポーツの振興については、誰もが親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現に向けて、総合型地域スポーツクラブや町体育協会等を支援するとともに、平成２３年度熊本県民体育祭水俣葦北大会開催の準備に着手します。また、合併５周年記念事業で、バレーボールのＶ・プレミアリーグ大会を誘致する予算を措置しました。

なお、平成２０年度から整備を行っております岩崎グラウンドについては、５月中旬に落成式及び合併５周年記念・落成記念グラウンド・ゴルフ大会を開催します。

文化・芸術の振興については、音楽祭・演奏家派遣事業や佐敷城跡観月会を継続して開催し、町民の文化・芸術に対する理解と感性を育むとともに、町内に残る貴重な文化財である国史跡佐敷城跡のさらなる保存と活用を図るために、佐敷城跡保存活用検討委員会において、今後の保存活用計画策定協議を行います。

また、町内に存在している各文化財は、歴史・文化を考えるうえで先人から受け継いだ貴重な遺産であり、適正な維持管理に努めてまいります。

その他、平成２１年度から改修工事に着手した農村環境改善センターは、新たに地域活性化センターとして４月から供用開始し、６月中旬に記念イベントを開催します。

自然体験教育の推進では、子ども体験学習を開催し自然を活用した交流の促進を図ります。

国際交流については、海外の自治体職員を研修生として招聘する「自治体職員協力交流事業」や国際的な視点でまちづくり活動の推進力となる人材の育成を目的とした「英国派遣事業」を実施するとともに、芦北町国際交流協会の活動を積極的に支援してまいります。

国際協力・貢献事業については、町民運動として定着した「カンボジアに学校を贈る運動」により、昨年１２月には４校目を贈呈することができました。今後も、芦北町国際交流協会や小中学校等と協力しながら、さらなる国際協力・貢献事業を促進してまいります。

次に、「生活を支える基盤づくりについて」であります。

交通ネットワークの整備については、南九州西回り自動車道田浦・芦北両インターチェンジを核として、国道３号、県道、広域農道などと合理的、有機的に連結させる道路網の整備促進により、利便性、安全性の向上を図ります。

町道については、新たな道整備交付金事業５カ年計画を策定し、花東本町線の拡幅改良、宮崎湯治線及び平生２号線の舗装事業に着手しますが、計画初年度である

平成２２年度は、測量設計、用地買収を実施します。

また、田川瀬戸線で橋りょう拡幅、瀬戸線においては道路改良工事を実施します。

その他の町道については、交通安全施設、道路災害防除、舗装等を適宜実施し、安全で快適な道路の維持に努めます。

国道３号については、国土交通省の御立岬入口交差点の右折レーン設置計画に則り、町も一体となり早期完成に向け対応してまいります。

県道については、芦北坂本線、球磨田浦線の改良工事負担金を措置し、更なる整備促進を図ります。なお、二見田浦線は、管内区間の早期完成と併せて、八代市区間の早期着工を強く要望していきます。

御立岬土地活用事業については、今後も安全性に十分留意しつつ、計画的に造成事業を行ってまいります。

地籍調査事業については、黒岩地区・上原地区で一筆地調査に着手し、大岩地区で地積測量を実施し、立川地区・吉尾地区で地籍図及び地籍簿の閲覧を行い、全体事業の早期完了に向け継続して事業の推進を図ってまいります。

環境保全対策については、広報、巡視活動による不法投棄の防止、地球温暖化防止のための温室効果ガス削減に向けた取り組み等を引き続き実施します。また、クリーンエネルギーの導入促進対策として、住宅用太陽光発電システム設置に対して補助を行います。

また、水俣病関連については、水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法が昨年７月可決成立したのを受け、現在、水俣病被害者団体等との間で解決に向けた協議が行われていますので、その動向を注視しつつ、引き続き相談窓口を設置し各種相談に対応するとともに、水俣病に対する理解を深めるために独自の情報発信事業を行います。

肥薩おれんじ鉄道は、沿線の人口減少で利用者が減少しており、厳しい経営状態が続いておりますが、今後も沿線自治体や関係機関との連携に努め、利用促進を図ってまいります。

路線バス対策については、少子・高齢化に起因する乗降者数の減少により毎年増嵩する運行費補助金の低減化と効率的な運行体制を図るために、平成２２年度より、スクールバスへの一般混乗使用のための実証運行を実施します。

南九州西回り自動車道は、平成２１年４月に、本町では２か所目となる芦北インターチェンジの供用が開始されました。今後も引き続き関係機関等と連携しながら全線開通を目指した、要望活動を行ってまいります。

次に、「効率的な行政組織づくりについて」であります。

平成１８年３月に策定しました行政改革大綱（集中改革プラン）の計画期間が平成２１年度で終了することから、新たな行政システムの構築に向けた改革推進のため、第２期芦北町行政改革大綱を策定し、改革の柱である「行政組織の強化」と「効果的・効率的な行政運営の確立」の実現のため、行政組織全体の更なる見直しと定員の適正化に努め、簡素で効率的な行政組織体制の整備を図るとともに、総合計画と財政計画を連動させ、計画的な財政運営を推進します。

また、平成１９年度に試行導入しました人事評価制度の効果的な運用を図るため、引き続き評価者及び職員研修を実施し、適切な人事管理に努めてまいります。

職員の資質向上につきましても、自己決定・自己責任が求められる地方分権時代にあって、ますます重要になりますので、芦北町人材育成基本方針に基づき各種研修を実施し、これに応え得る職員養成に努めてまいります。

戸籍・住民基本台帳等の窓口業務については、正確かつ迅速な処理を必要とすることから、戸籍法、住民基本台帳法のもと、個人情報の保護に留意しながら適正な事務処理に努めます。

また、国民年金事務については、町民の老齢、障害及び死亡に関する年金に必要な関連事務を処理し、適正な年金給付の実施に努めます。平成２２年１月１日から日本年金機構へ組織の再編が行われましたが、引き続き年金事務所と連携しながら、毎月の年金相談を実施し事業の推進を図ります。

次に、特別会計について申し上げます。

国民健康保険事業については、３２億1，０７０万円を措置しました。

昨今の社会情勢により、少子高齢化の進展や低迷する経済状況により、国民健康保険被保険者は、低所得者や高齢者の加入割合が高く、医療費は増加し保険税収入は減少するなど、取り巻く状況は厳しさを増しています。

平成２２年度も引き続き、生活習慣病予防に重点をおいた特定健診、特定保健指導に取り組み、被保険者の健康の保持増進を図ることにより、医療費の抑制に努めてまいります。また、医療費適正対策として、「ジェネリック医薬品希望カード」を全被保険者へ配布し、医療費の削減と自己負担額の軽減を図ります。

吉尾温泉診療所については、5，１３０万円を措置しました。

外来及び往診患者数は減少傾向にありますが、周辺地域からの受診率は高く、へき地医療施設としての役割を十分認識し適正な医療の確保に努めてまいります。

老人保健事業については、後期高齢者医療事業へ移行したことに伴い月遅れ請求分３０万円を措置しました。なお、平成２２年度で事業は終了することになります。

介護保険事業については、１８億7，９３０万円を措置しました。

高齢者が社会参加をしながら、地域で安心して暮らせる社会を構築するために、予防重視施策を踏まえて、地域包括支援センターを中心として地域支援事業を実施してまいります。

平成２２年度も引き続き転倒骨折予防事業を実施し、高齢者の転倒骨折及び閉じこもりの未然防止等介護予防に努めてまいります。

簡易水道事業については、１億１，３８０万円を措置しました。

水道水の安全かつ適正な運転管理及び安定的な供給を図るとともに、上水道事業との統合に向けて、老朽化した監視設備を上水道事業と一括して集中監視するためのシステム改修を行います。

農業集落排水事業は、２億１，１７０万円を措置しました。

施設の計画的な修繕と適正な維持管理に努めるとともに、平成１９年度に導入した余剰汚泥の減量化は一定の効果が出ていますので、引き続き実施し経費の削減を図ります。

また、不明水の原因箇所究明のため、カメラによる管路の調査を実施します。

生活排水事業は、維持管理費として６，０７０万円を措置しました。

浄化槽からの放流水の状態に応じた効率的な管理を行い、引き続き経費削減に努めていきます。

町有温泉事業については、１億５９０万円を措置しました。

おもてなしの接客と施設衛生管理に努め、安全で安心な施設管理を行ってまいります。

特に、大野温泉センターにおいては、「道の駅」登録を視野に、さらなる利用環境の整備を行うとともに、物産館やレストラン部門と連携を図りながら誘客に努めてまいります。

奨学資金貸付事業については、２，３３０万円を措置しました。

経済的な理由により就学が困難な学徒に対して資金を貸与し、社会的有用な人材を育成することを目的に継続的に実施してまいります。

後期高齢者医療事業については、２億６，８７０万円を措置しました。

今後４年以内を目途に制度廃止の方向性が打ち出されましたが、現制度のもと、事業の推進を図るとともに、新制度創設に伴う周知等住民の方々に混乱を招くことがないよう、適切な事務処理に努めてまいります。

公営企業会計である水道事業については、３億６，５２９万７，０００円を措置しました。

水道水の安全かつ適正な運転管理及び安定的な供給を図るとともに、簡易水道事業との統合に向けて、老朽化した監視設備を一括して集中監視するためにシステム

の改修を行います。

終わりに、今後も景気や国政の動向が不透明な中で、いかに質の高いサービスを提供できるかを主眼におき、行政運営を行ってまいります。

そのために、本町の将来を見据え、町民ニーズを的確に捉え、町民、議会とのコミュニケーションを大切にして施策を推進してまいります。

以上、平成２２年度に望む行政運営の方針と予算の大綱を申し述べました。何卒御理解御協力を賜りますように、心からお願いを申し上げます。

最後に、議員各位はこの３月をもって任期満了となりますが、今日までその職責を果たされたことに深い敬意を表します。今回で御勇退される議員の皆様には、これまでの御苦労に労いを申し上げるとともに、再出馬される予定の議員の皆様には、４月以降、この場で再会できますことを祈念いたしまして、説明を終わります。御静聴、ありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　ここで暫時休憩します。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

休憩　午前１１時１７分

再開　午前１１時２７分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１１　議案第　５号　平成２２年度芦北町一般会計予算
日程第１２　議案第　６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
日程第１３　議案第　７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算
日程第１４　議案第　８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算
日程第１５　議案第　９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算
日程第１６　議案第１０号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
日程第１７　議案第１１号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
日程第１８　議案第１２号　平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算
日程第１９　議案第１３号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
日程第２０　議案第１４号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第２１　議案第１５号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算
日程第２２　議案第１６号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について
日程第２３　議案第１７号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第１１、議案第５号「平成２２年度芦北町一般会計予算」から日程第２３、議案第１７号「芦北町大関水販売運営基金条例の制定について」

までは、先の議会運営委員会で一括議題とし、委員会付託する旨の答申があっておりますので、会議規則第３６条の規定により一括議題とします。

ただいま一括議題としました議案については、先ほどの日程第１０「平成２２年度施政方針と予算大綱説明」で町長の説明もあり、また先の議会運営委員会において委員会付託する旨の答申があっておりますので、会議規則第３８条第２項の規定により、提案理由の説明を省略したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、一括議題の議案は提案理由の説明を省略することに決定しました。

これから一括議題の議案に対し質疑を行います。

先の議会運営委員会において、委員会付託の申し出があっております。質疑はあくまで総括的かつ大綱にとどめるよう求めます。

質疑ありませんか。川尻君。

○１４番（川尻成美君）　２点ほどお願いしますが、歳入のうち、町税というのがございます。６項目ほどありますけれども、この中で地方税法４１条で市町村が徴収をする中で県民税というのがございます。これにはもう含まれていないわけですけれども、できればですね、町民から県民税、県税を払うわけで、徴収も町でするわけですので、だいたいこの町税の１４億６，７１６万７，０００円が今年度の予定になっておりますが、そのどのくらいに値するのかというのが１点お願いしたいと思います。

あと１点が、地方債でございますけれども、地方債の徴証を見てみますと、今年度末の現在高の見込みが１１３億７，６５２万４，０００円という見込みが地方債残高になるわけですけれども、これにおいては芦北町は過疎債とかもありますし、地方交付税で還元されるものが非常に多いような感じがいたしますし、特にこの災害復旧における地方債は９５％という形で返ってくるというふうに思います。そういう形で、この割合ですね、還元する地方債の中で地方交付税で返ってくるのはどれくらいなのか、割合をですね、お願いしたいと思います。

○議長（藤井公明君）　農中税務課長。

○税務課長（農中　豊君）　ただいま川尻議員さんの御質問にお答えしますが、まず町県民税合わせて１０％、課税所得に対して掛けております。そのうち６％が町民税でございます。平成２２年度の予算といたしましては、町税が４億６，８４６万４，０００円、県税がだいたい４％ですから、３億１，２３０万９，０００円程度になるかと思います。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　井川企画財政課長。

○企画財政課長（井川良一君）　お答えします。

地方債に対する交付税の算入率から申し上げますが、まず過疎対策債が７０％、合併特例債が７０％、減収補てん債が１００％、臨時財政対策債が１００％、災害復旧事業債が９５％でございます。そういうことで、一般会計ベースで申し上げますと、平成２０年度実績としまして１１７億7,９２３万9,０００円、それから簡水会計が１億7,３７０万7,０００円、それから集排水会計が１６億５８万1,０００円、生活排水会計が２億1,６１８万3,０００円、合計の１３７億6,９７１万円になりますけれども、それに占めます額としましては、平成２０年度実績としまして７４.６８％の１０２億8,３５３万円が交付税の算入額となります。

以上です。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。大丸君。

○１９番（大丸清光君）　今期で私も勇退をいたしますので、最後の質問をしておきます。

合併して５年を経過いたしました。広域行政組合の負担金問題についてお尋ねをいたします。４年前になると思いますが、私、この負担金の問題で、当時、財政課長、藤崎副町長だったですかな、お尋ねいたしました。当時、旧町時代、二本立てで負担金の割合を出しておりました。合併メリットがない、メリットを出すために合併をしたということで、なぜ算定は一本化をしないのかというようなことで質問をいたしました。ちょうど５年を経過しております。今年から６年目に入ります。当時の答弁によりますと、５年間は二本立てで負担金を出させてください。５年後は一本化いたしますというような答弁をいたしました。今回の予算でその一本化ができておるのか、この問題を当時の財政課長である藤崎副町長にお尋ねをいたします。

○議長（藤井公明君）　藤崎副町長。

○副町長（藤崎正司君）　今、大丸議員さん、この広域組合負担金、これは消防費の件でございます。当時、企画財政課長をやっておりまして、合併して２年目から地方交付税に算入されます消防費の基準財政需要額、これを合併の特例措置としまして、旧芦北、旧田浦分を別々に計算しまして、基準財政需要額というのが一つございました。合併した中の一本算定でした基準財政需要額というのがございました。その中で結果的にいえば、合併した二本立ての基準財政需要額の額としては多く交付税に算入されることになります。計算上は一本ですれば、それより少なくなります。そういうことから、合併のメリットを主張して、広域組合の幹事会の中で話を申し上げてまいりました。そしてまた、理事会の中でも、当時、記

録を見てみますと、芦北町としましては町長が理事でございますけれども、合併メリットのために一本算定で芦北町は出したいということ。そういうことになりますと、水俣、津奈木につきましては、総予算のうち、出し前が多くなるということでございますので、５年間は今の合併、二本立ての基準財政需要額で計上してくれないか。５年後につきましては一本算定でいいだろうというような受け方を私はしたわけでございますけれども、その５年間が経ちまして、やはり話がもとに戻りましてですね、今回、広域組合の消防費の予算としましては、今までどおりの予算計上がなされております。ただし、芦北町の今回の２２年度の予算につきましては、そのような経緯がございましたので、芦北町としましては一本算定の予算を出しているところでございます。これは当然、今度の広域組合の議会で問題になるかと思っております。そのような経過でございます。

○議長（藤井公明君）　大丸君。

○１９番（大丸清光君）　ちまたの噂によりますと、この一本算定につきまして、水俣市、津奈木町が、当時の約束を破り、５年間また延長して、１０年はそのままの状態にしていただけないだろうかというような話が出ているように聞こえております。今の副町長の答弁で、今年度から本町は一本算定で予算を計上したということで、そのことを聞きまして安心いたしました。当時、私も広域議会の議員をしておりましたので、広域議会の議場でもこの質問をして、５年間はさせてくれというような答えをいただいた記憶がございます。また、本町におきましても、当時の財政課長も５年間はこのままの状態で継続させてください。６年後は一本算定をいたしますというような答弁をもらいましたので、是非とも、この方向でいっていただくように、しかとお願いをいたしまして、私の最後の質問を終わります。

以上です。

○議長（藤井公明君）　寺本君。

○２１番（寺本修一君）　大丸議員に関連して、竹﨑町長にお伺いいたします。

今申されましたとおり、５年前、理事会で一本算定をするという、理事会でですよ、合意がされております。幹事会で付議文書が下にありまして、あれはあくまでも幹事会の意見でございますので、理事会で決定したことが５年経って再び、宮本代表理事、竹﨑町長が副代表理事、西川理事で合意したものが、５年後にまた覆されるというのは、私も憤慨いたしておりますが、今回の理事会の経過は、町長、どうなっていますか。現段階での経過、結果をお知らせください。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　寺本議員におかれては、最後の質問ではないかという理解のも

とで答弁させていただきますが、ただいま大丸議員、そしてまた副町長がお答えしたことで概ねお分かりかと思いますけれども、理事会では５年前の理事会の議事録をもとに、５年間は合併算定替えでいってほしいということがございまして、私どもは一本算定でございまして、平行線になりました。そのままでは広域行政、歳入欠陥を生じるわけでございますし、特例措置として交付税も対応してございましたので、百歩譲って５年ということで、その経過を見てきたわけでございますが、５年前の議論と同じ議論がまた繰り返されたわけでございますけれども、私は当時の理事会の合意に基づきまして一本算定を主張してまいりました。２２年度の当初予算案にもそのように計上させていただいたところでございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　寺本君。

○２１番（寺本修一君）　私も当時の広域議会の議員をしておりましたが、今、町長の御答弁を聞きまして、理事会に対しまして、私は不信感を抱くものでございます。理事会三者で合意したものが、何で５年間経ってまたぶり返されるのかという疑念を抱きます。是非一つ、大丸議員も申されましたとおり、合併は１０年間の特例措置として合併算定替えをして交付する、これは合併した市町村に対しての１０年間のメリットでございますので、当然、私は一本算定をすべきものと思いますので、また広域議会があるようでございますので、そのときも申し上げたいと思います。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

お諮りします。ただいま議題となっております日程第１１、議案第５号「平成２２年度芦北町一般会計予算」から日程第２３、議案第１７号「芦北町大関水販売運営基金条例の制定について」までは、お手元に配付しております議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

各常任委員会におきましては、慎重な審査を実施され、その結果を最終日の本会議において各常任委員長から報告願います。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２４　議案第１８号　芦北町行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第２４、議案第１８号「芦北町行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。内山総務課長。

○総務課長（内山忠美君）　議案第１８号、芦北町行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について御説明申し上げます。

行政財産の土地使用料につきましては、合併時に両町の整合性を図るため、熊本県行政財産使用料条例に準じ、当該土地の固定資産評価額の１００分の４を乗じた額に統一を図ったところであります。その結果、一部の物件におきまして、使用料に変動が生じたため、急激な負担増を考慮し、５年間の調整期間を設け、段階的に増額を行うことといたしました。その間、平成１８年、２１年度におきまして、固定資産の評価替えがなされていますが、調整期間中でもあったことから、貸付額に評価替えを反映することは行っておりません。

そこで、今後、年度をまたぐ長期使用者にかかる使用料の算定については、当該行政財産の使用目的、耐用等により、本文に規定する使用料の額によることが著しく不適当と認める場合は、近傍類似の施設等の使用料を勘案して、使用料の額を定めることを可能とするため、規定を追加し、使用料の安定を図るものであります。

附則、この条例は公布の日から施行する。

なお、提案理由は記載のとおりであります。

よろしく御審議いただきますようお願い申し上げます。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。川尻君。

○１４番（川尻成美君）　この条文に但し書きが増えたということで理解すればいいんですけれども、こういうことを但し書きでするということであれば、そういう行政財産の使用があるというふうにも理解するんですが、だいたい具体的にどういう行政財産を使用しているところがあるのか具体的にお願いしたいと思いますが。

○議長（藤井公明君）　内山総務課長。

○総務課長（内山忠美君）　川尻議員の質問にお答えしたいと思いますが、行政財産の貸し付けにつきましては、公共性が高い団体に貸し付けを行っております。例えば、役場でいいますと、肥後銀行さんとかＪＡあしきたさんのＡＴＭの機械とか、それから九州電力さんにおきましては町営住宅とか公園敷地の電柱等の敷地料等を貸し付けております。これは西日本電信電話等も一緒でございます。そのほかですね、水路敷とか鉄塔敷等々も貸し付けを行っております。これは普通財産とはまた異なりますので、そういったところに貸し付けを行っております。

それで、毎年ですね、評価といいますか、見直しは行っておりますが、著しく評

価が高くならない場合以外は据え置いていると。そういったことで、減免措置もとっておりますので、こういったことで行っているところでございます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１８号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１８号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２５　議案第１９号　芦北町果樹共同給水施設条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第２５、議案第１９号「芦北町果樹共同給水施設条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。柳田農林水産課長。

○農林水産課長（柳田豊彦君）　議案第１９号、芦北町果樹共同給水施設条例の一部を改正する条例の制定についてを申し上げます。

これまで地元管理をしておりました以下の２施設、湯治山と湯南の給水施設につきまして、この条例の中に追加をして、今まで１５か所あった給水施設を１７か所にするというものでございます。

これは昨年の干ばつ時にですね、給水施設は大きな機能を発揮をいたしました。今後、果樹に対する給水施設機能をより効果的に発揮させるため、現在までのところ、地元管理となっておりました湯治山地区と山川地区の給水施設を町に編入をいたしまして、町で今後一元管理を行うということを目的にこの条例を改正するものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

なお、附則としまして、この条例は平成２２年４月１日から施行するものでございます。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１９号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１９号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２６　議案第２０号　町道の路線廃止について

日程第２７　議案第２１号　町道の路線認定について

○議長（藤井公明君）　日程第２６、議案第２０号「町道の路線廃止について」から日程第２７、議案第２１号「町道の路線認定について」までは、先の議会運営委員会の答申を踏まえ、会議規則第３６条の規定により一括議題とします。

質疑は、説明が終了した後、一括して行います。

それでは、本案について、提案理由の説明を求めます。竹田建設課長。

○建設課長（竹田茂幸君）　議案第２０号、町道の路線廃止について説明いたします。

今回の提案の２路線につきましては、現在、宮崎湯治線が湯浦駅前を走ります県道天月湯浦線側を起点として、湯治山を東へ横断し、荒平テレビ塔線合流部で終点となっております。

一方の荒平テレビ塔線は、湯浦宮崎から山越えで芦北田川へ抜けます県道宮崎芦北線側を起点として、湯治山を西へ向かい、宮崎湯治線との合流点から左折南下し、テレビ塔が終点となっており、２路線いずれも終点は主要道に接していないものとなっております。そのため、本議案で一旦廃止し、次の議案第２１号で新たに認定をお願いするものでございます。

中程の表をご覧ください。

路線番号１３９、荒平テレビ塔線、起点が大字宮崎字赤江迫６６－５地先から、終点、大字宮崎字田代８０６地先。路線番号２９３、宮崎湯治線が、起点、大字宮崎字宮崎１３８－４地先から、終点、大字湯浦字湯浦３－５８６地先であります。

位置図を２ページから３ページに添付しておりますのでご覧ください。

なお、提案理由につきましては記載のとおりです。

次に、議案第２１号をお願いいたします。

議案第２１号、町道の路線認定について説明いたします。

本件は、宮崎湯治線を起点は現在地点のままとし、終点部を県道宮崎芦北線取付とすることにより、湯治山越えの幹線と位置付け、荒平テレビ塔線は起点を現在の宮崎湯治線合流部に変更、延長を短縮し、支線的なものとします。

この路線組み換えにより、２つの路線位置を明確にし、現地の道路事情に即したものとするものでございます。

中程の表をご覧ください。

路線番号１３９、荒平テレビ塔線は、起点が大字湯浦字湯治、終点が大字宮崎字田代。路線番号２９３が、宮崎湯治線でございまして、起点、大字宮崎字野下、終点を大字宮崎から字榎谷であります。

位置図につきましては、２ページから３ページを御参照ください。

なお、提案理由につきましては記載のとおりでございます。

以上、議案２０号及び２１号の説明を終わります。

御議決のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を一括して行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから議案第２０号から議案第２１号まで、順次に討論を行い、採決します。ます。

議案第２０号について、討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２０号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２０号は原案のとおり可決されました。

議案第２１号について、討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２１号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定

することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２１号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２８　議案第２２号　工事請負契約の変更について

○議長（藤井公明君）　日程第２８、議案第２２号「工事請負契約の変更について」を議題とします。

本案について、提案理由の説明を求めます。田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　議案第２２号、工事請負契約の変更について御説明申し上げます。

平成２１年９月３日の議会において議決されました芦北町清掃センター芦北事業所解体整備工事請負契約のうち、契約の金額２億６，０２９万５，０００円を２億９，０１９万２，６８９円に変更するものでございます。

この変更の主な理由につきましては、地質調査の結果、建屋の基礎改良部位、地すべりを防止する抑止杭が必要となったこと、及び施設解体後に建屋裏にありましたブロック積みに亀裂が入っているのが発見されたため、ブロック積みの改修が必要となったためでございます。

提案理由につきましては記載のとおりでございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第２２号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第２２号は原案のとおり可決されました。

ここで議案を配付しますので、しばらくお待ちください。

[議案配付]

○議長（藤井公明君）　配付漏れはありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　配付漏れなしと認めます。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第２９　諮問第１号　人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

○議長（藤井公明君）　日程第２９、諮問第１号「人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて」を議題とします。

本案について、説明を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　人権擁護委員に次の者を推薦したいので、議会の意見を求めるものでございます。

住所、熊本県葦北郡芦北町大字古石５８３番地、氏名、池田静彦。

この件につきましては、平成２２年６月３０日に任期満了となるものでございまして、法務大臣に候補者として推薦するために当議会に提案させていただくものであります。

池田静彦氏でありますが、現在、平成１９年７月１日から人権擁護委員として法務大臣から委嘱され、現職として活躍されておられます。温厚にして篤実な人柄は、町民からの信望も厚く、また豊富な行政経験もおもちであることから、人権擁護委員に最適と認め、ここに議会の意見を求めるものでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから諮問第１号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり答申することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、諮問第１号は原案のとおり答申することに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第３０　陳情第１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について

○議長（藤井公明君）　日程第３０、陳情第１号「道川内乙千屋川河川道路（生活道

路）の町道編入について」の陳情書は、先の議会運営委員会の答申を踏まえ、会議規則第９０条第１項の規定により、お手元に配付しております請願・陳情文書表のとおり、所管の常任委員会に付託したいと思います。御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、請願・陳情文書表のとおり、所管の常任委員会に付託することに決定しました。

常任委員会におきましては、慎重な審査を実施され、その結果を委員長から報告願います。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれにて散会します。

ご苦労さまでした。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

散会　午前１１時５７分

平成２２年第１回芦北町議会定例会議事日程（第２号）

平成２２年３月２日
午前１０時　開　会
於　　議　　場

１　議事日程

開会宣告

日程第１　一般質問

（散　会）

２　出席議員（１９人）

２番　宮　内　道　則　君	３番　古　村　逸　男　君
５番　白　坂　康　浩　君	６番　草　野　安　道　君
７番　前　田　徹　一　君	８番　荒　川　臣　六　君
９番　元　山　秀　志　君	10番　宮　尾　秀　行　君
11番　平　松　洋　一　君	12番　市　川　信　作　君
13番　釜　　信　一　君	14番　川　尻　成　美　君
15番　白　窪　　泉　君	17番　川　野　　眞　君
18番　水　口　宣　之　君	19番　大　丸　清　光　君
20番　岡　部　恵美子　君	21番　寺　本　修　一　君
22番　藤　井　公　明　君	

３　欠席議員（０名）

４　説明のため出席した者の職氏名（１７人）

町　　長	竹　﨑　一　成　君	副　町　長	藤　崎　正　司　君
教育委員長	本　山　　嵩　君	教　育　長	竹　浦　裕　道　君
政策審議員兼 総　務　課　長	内　山　忠　美　君	政策審議員兼 企画財政課長	井　川　良　一　君
田浦基幹支所長	迫　本　文　雄　君	税　務　課　長	農　中　　豊　君
住民生活課長	田　畑　一　實　君	商工観光課長	坂　梨　　優　君
福　祉　課　長	大　岩　憲　治　君	農林水産課長	柳　田　豊　彦　君
建　設　課　長	竹　田　茂　幸　君	上下水道課長	山　本　正　博　君
教　育　課　長	永　田　光　洋　君	生涯学習課長	中　原　豊　徳　君

会計管理者兼
会 計 室 長　　川　尾　敏　浩　君

5　職務のため出席した事務局職員の職氏名（２人）

議会事務局長　　福　山　勝　廣　君　　次　長（係長）　岡　田　謙　治　君

平成２２年第１回定例会一般質問通告表

質問順番	質問者	質問事項	質問の要旨	質問の相手
1	川尻　成美	１　芦北町総合計画の基本計画の前期の成果と後期の最重点施策について	2005年度から2014年度までの本町総合計画の基本計画の前期を終えて、後期計画が４月１日スタートする。 ①　前期基本計画の成果をどうとらえているのか。 ②　後期基本計画の最重点施策はなにか。 ③　後期基本計画作成にあたり、町民の意見をどのように取り入れたのか。	町　長 町　長 町　長
		２　海岸漂着ごみ対策の迅速な推進について	昨年７月、「海岸漂着物処理推進法」が施行されたのを受けて、「県海岸漂着物対策推進協議会」が設置され、本町も海岸線をもつ14市町の一町として、この会の一員となった。 ①　この協議会の役割をどう認識し、会員として、どのような役割を果たす考えであるか。 ②　昨年のゲリラ的豪雨により本町の海岸・港へ、大量の漂着ごみが流れこみ、沿岸町民、漁業者等、多くの町民が苦慮し、これまで町として打つ手もなく、不満・不安の声が多く聞かされる。この推進協議会の迅速な対策とともに本町自治体の対策を強力に進める考えはないのか。	町　長 町　長
2	宮尾　秀行	生きがいのある働き場づくりについて	若者は地域の宝であるが、結婚している人が少ないと思われる。特に第一次産業の若者（後継者）にその傾向があると考えるが、行政として手助けは出来ないか。	町　長
3	岡部恵美子	湯浦温泉街の活性化について	湯浦温泉街の疲弊を打開すべきものと考え、将来に	町　長

			向けてヘルシーパーク運営の一環として、家族湯の設置並びに宿泊施設の整備の考えはないのか。また、温泉プールの利用者増を図る策として、スポーツ振興に合せて健康づくりにつながる方策はないのかを伺いたい。	教育長

開議　午前１０時００分

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

◯議長（藤井公明君）　おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

お手元に配付の議事日程にしたがって会議を進めてまいります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第１　一般質問

◯議長（藤井公明君）　日程第１、一般質問を行います。

質問通告者は３人です。通告表はお手元に配付しております。質問時間は従来どおり、補助質問を含めて３０分以内に制限いたします。

それから、一般質問は通告制でありますので、通告者の質問に関連して求める関連質問は許可されません。

質問にあたっては、通告内容に基づいた質問をされるよう求めます。なお、執行部の答弁も明快かつ簡潔に求めます。

それでは、順番に発言を許します。

はじめに、川尻君。

◯１４番（川尻成美君）　皆さん、おはようございます。

それでは、私はこの任期最後の定例議会におきまして、４年間の議会を締めくくる意味でもあり、２つの問題について質問いたします。

一つは、芦北町総合計画、前期基本計画の成果と後期計画の最重点施策について、一つは海岸漂着ごみ対策の迅速な推進についてであります。

まず、第１の芦北町総合計画の基本計画、前期の成果と後期計画の重点施策について質問をいたします。この芦北町総合計画は、平成１７年９月１３日の定例議会において、基本構想でありますまちづくりの基本理念、まちづくりの目標、施策の大綱を定め、平成１７年度から平成２６年度までの１０年間を期間とするまちづくりの指針を示したもので、地方自治法第２条２項の規定により、議会の議決を経て、基本構想に基づいて作成された前期基本計画がスタートし、早５年が経過しております。これが芦北町総合計画の１０年間を示した計画書でございます。

その中で質問の第１点は、この３月で前期計画が終了するわけですが、６つの柱で作られた前期基本計画の成果をどう捉えているのか、まず質問するものであります。

２点は、その経過を踏まえて、後期基本計画を作成することになりますが、その後期基本計画の最重点施策は何なのか質問します。

第３点は、計画づくりにあたって、一番大事とされる町民の意見の反映でありま

す。この後期基本計画を作るにあたって、町民の意見をどのような形で取り入れておられるのか質問します。

次に、第２の質問であります。今、芦北町の大きな課題の一つであります海岸漂着ごみ対策の迅速な推進についてであります。この問題については、梅雨時期はもとより、近年のゲリラ的豪雨の度にどうにかならないものか頭を悩まされている地域住民の一人として、いろいろと苦慮してきました。たまたま去る２月１５日の西日本新聞に「県など２５団体漂着ごみ対策で協議会」の見出しの記事を見たのであります。これによりますと、昨年７月に海岸漂着ごみ処理推進法が施行されたのを受けて、県海岸漂着物対策推進協議会が設置され、本町も海岸線をもつ１４市町の一つの町として、この会の一員となったことを知りました。

そこで、第１の質問は、この協議会の役割をどう認識し、会員としてどのような役割を果たす考えでいるのか質問するものであります。

この写真でございますけれども、これは私の地元であります京泊漁港と、これが私の前の牛の水漁港でございます。これが１０月２日未明に発生したごみの、明くる日、１０月３日の午後に撮った写真であります。そういう写真のもとでございますけれども、こういう事態が発生するのを度々見まして、本町の農林水産課にも電話をしたので、現状を確認していただき、写真も撮られているというふうに思いますし、町長もその旨報告がなされ、町長にもですね、報告がなされ、十分理解し、対策も指示されているというふうに考えております。

そこで、質問の第２点は、昨年１０月２日未明のゲリラ的豪雨により、本町の海岸、港へ、大量の漂着ごみが流れ込み、沿岸町民はもとより、多くの漁民が苦慮しておられました。にも関わらず、まだ何ら打つ手もないという状況でありまして、度々不満・不安の声が聞かされております。この推進協議会ができたのを受けて、迅速な対応をされるものと期待をしておりますが、この協議会の対策、方針も踏まえ、本町自治体としての対策を強力に進める考えはないのか質問するものであります。

以上、申し上げましたが、町長の明確かつ責任ある答弁を求めて、第１回目の質問を終わります。

○議長（藤井公明君）　これより答弁を求めます。竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　川尻議員の質問にお答えをいたします。

まず、本町総合計画の前期基本計画の成果をどう捉えているのかというお尋ねでございまして、これにつきましては前期基本計画５年間に、６つの基本目標に定めるすべての施策において、着実にその成果を上げたと認識をしております。

次の後期基本計画の最重点施策は何かということでありますが、引き続き総合計

画の基本構想に掲げます６本の柱のすべてが最重点施策であります。

また、３番目の後期基本計画作成にあたり、町民の意見をどのように取り入れたのかということでございますが、これにつきましては、ご存じと思いますけれども、町民意識調査、いわゆる２，０００人アンケートを実施し、取りまとめて計画の参考と致しております。

また、計画素案に対しますパブリックコメントを実施して、広報紙、町ホームページで広く町民からの意見を募集しております。さらに、町内各界を代表される審議会におきまして、原案に対する意見や要望をお聞きし、反映をしておるところであります。

続きまして、海岸漂着ごみ対策の迅速な推進についてでございますが、まずこの協議会の役割の認識でありますけれども、あわせまして会員としてどのような役割を果たすかということでございますけれども、これにつきましては、熊本県内海岸環境を守るために本協議会が設置されたと考えておりまして、県地域住民及び関係機関等と連携・協力して取り組む必要があるというふうに認識をしておるところであります。

続きまして、昨年のゲリラ的豪雨によりまして、本町の海岸、港への大量の漂着ごみが流れ込んでおります。先ほど、写真でもお示しをいただいたとおりでございます。これらの対策につきましては、推進協議会の対策を推進しますとともに、突発的な豪雨等による漂着物の処理につきましては、今後、更にですね、臨機応変にこれに対応してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

以上であります。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　それでは、第１の質問からでございますが、要するに成果ということで１点目を挙げておりますけれども、執行部としては着実に６本の柱が推移しているというのは当たり前のことかなあというふうに捉えておりますけれども、私がいつも一般質問あるいは委員会等で言っておりますのは、実績が１年間報告が決算時期にありまして、その成果については具体的にあまり捉えてないものですから、この成果の方法をですね、少し分かりやすく表記してはいかがかということも再三捉えておりますので、そういう形であれば、明確に見えるんですけれども、そこがちょっと執行部の各担当課での意思の疎通が図られていないのかなというふうにもございますし、他町村の例を挙げまして、そういう成果の一覧表とかを参考に申し上げたところでございますので、そういう形を捉えて今後ももらえれば、非常にこういう推移がはっきり一年一年が分かるのかなあというふうに考えておりますが、特に芦北町集中改革プランにおきまして、ちょうど本年度で２２年ま

での効果という、数字的な効果が出されましたよね。この出されたのに、最終的には６億９，４３７万４，０００円の金額としての効果が出ているというふうにありますけれども、この点については、その推移について、どのような状況なのか、数字で出ていれば、２１年度までですね、出ていれば、どういう状況なのか分からないでしょうか。数字としての成果ですね。多分、これで出ていると思います、行政改革実施計画の中で。

○議長（藤井公明君）　川尻君、今の質問ですが、ちょっと数字的な具体的な質問になってきますので、そこまでですね、今日、執行部が準備しとるかどうかはですね、ちょっと今、いいですか。井川企画財政課長。

○企画財政課長（井川良一君）　お答えいたします。

今の行政改革による財政効果ということでよろしゅうございますか。はい。

合計としましてですね、町民の視点の改革、それと財政の改革、事務事業の改革、組織体制の改革、そして町民の意識改革をまとめますと、平成１７年度から２１年度まで、約９億２，５４０万３，０００円推計を出しております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　要するに、議長、よかですか。これを作るのに、やっぱりそういう成果のもとにあるのかなあというふうなことで、多分、執行部は答弁できるものというふうに思ったものですから、そうしたことを言ったんですが、いわゆるはっきり申し上げて、この当初、平成１７年度にこの改革の素案ができたとすれば、相当効果が出ているという評価が数字に出ていると思いますよね。２２年度までが６億９千何百万ですから、もう２１年度で９億ということは、出ているということで、大変実績が上がったということで、敬意を表したいというふうに思いますので、いいことですのでですね、決してそれをどうこうというわけじゃなくして、いいことはいいこととして伸ばしていかなければいけない。それが後期の基本計画にさらに具体的に施策が組まれるわけですので、そういう観点からですね、こういう質問をしたわけであります。私は、いつもこれに合わせて、３年ごとにローリングします、この実施計画書というのも常に見ながら、これはできていない、遅れたじゃないか、これは前倒しではないかというのを、常に見て、議員の役目としての批判監視を行ってきているつもりでございますので、そういう中で２点目に入りますけれども、後期計画が今後、重点施策というのは６本の柱すべて重要であるということで、そのとおりであろうというふうに思いますけれども、特に「個性の光る活力あるまちづくり」というのが基本のメインになっておりますし、そして「すべては２１世紀を担う子どもたちのために」ということであるならば、やはり今、非

常に家庭教育から始まり、学校教育、そういう地域教育が一番大事になろうかというふうに思いますが、その６本の柱の中でですね、そこでその次世代の子どもを担う中で、一番町長が力を入れなければいけないということはどういう具体的事業になろうとするわけですか、お尋ねします。

○議長（藤井公明君）　川尻君、質問事項、それから質問の要旨とありますね。これには具体的に示せということで、議長から指示をしております。したがって、今①の中で前期基本計画の成果をどう捉えているのかという質問でありましたので、それについてですね。今のは２番目ですけど、１番目のことを言ってるので、「議長」とあなたが私を名指しで言われましたから、であるならですね、具体的に数字で示せと、ここに一言ですね、付け加えておくなら、執行部でも十分それへの対応はできると思いますので、これから具体的に質問要旨は書いていただくように、くれぐれも議長から申し入れをしておきます。

それでは、２番目の件について、竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　重ねてお答えしますけれども、６つの柱のすべてが最重点施策であります。しかし、その根幹にありますものはですね、やはり安全・安心のまちづくり、人材育成にしても、やはり安全・安心の教育環境をつくることが根本でありますし、あるいは住民生活におきましても、安全・安心、これの確保がやはり根本と思っております。したがいまして、これを６本の柱を束ねる、その束ねる根本にありますのは安全・安心の概念であります。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　大綱的なお答えしかならないだろうというふうには思いますが、随時ですね、具体的施策はこの実施計画のもとに具体的にされるものというふうに期待をしております。

３点目でございますけれども、この計画の中にも町民の視点というのをよく言葉にしてありますし、先ほど申されましたように、施策に関する２０年度の町民の意識調査も私も見ております。そういう中で町民の意見を集約したものもありますけれども、やはり総括しますと、地域住民の声がやっぱり意見を十分取り上げてくれということもあっているというふうに、私は感じておりますし、開かれた町政の推進等につきましては、主なものとしましては、広報紙、ホームページ、要するにまちだよりとか、毎月発行されます広報紙がありますよね。そういうのが主体になっております。そういう中でパブリックコメントとかホームページとか言われましたけれども、この後期計画を作るにあたって、ホームページで掲載をされたのを見て、意見はありませんでしょうかと問いかけておられました。それが１１月の２日から１１月の１３日までに、この意見の募集がなされました。後期計画をするにあ

たってですね。そしたら、その結果は意見ゼロでございます。ホームページを見て意見を言うというのは、やはり非常にやっぱり今の現代社会はパソコンを使ってホームページ開いているのは、多くがそういう形をとっておられますけれども、なかなか我が芦北町にはこれがどれくらい、ホームページを見ているのがあるのか、調査はしておられないと思いますけれども、意見は寄せられなかったというコメントがあっていますよね。だから、何とかやっぱりそういう委員会とか審議会とかの意見だけじゃなくして、一部の意見だけじゃなくして、多くの町民からこの町民意識調査というのは、毎年されるようにした方がいいかなというふうに思いますが、町長、いかがでしょうか。今後ですよ、町民の意見を取り入れるのに、やはりこれは非常にいい調査になっているというふうに思いますが、今後、いかがでしょうか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　まず、２，０００人アンケートでありますが、県内でもですね、大変アンケート数あるいは率におきましても、トップレベルにある数字であります。いわゆる町民の約１割の方に問いかけをしておるわけでありまして、普通、科学的な統計のパーセンテージは５％以下でありまして、５％もいくと、もう御の字といわれておりますが、それを１０％やっとるわけでございまして、そういうのを取り入れます。そしてまた、回答いただきました中にはですね、特別この総合計画とか、あるいは基本計画等々にですね、載せなくても、即対応できるやつもあるんですね。ですから、そのようなものはもう対応しておりますので、計画には上がってまいりません。そして、中身を分析しまして、中長期展望に立った計画策定の参考にしておるところであります。

それと、広報「あしきた」でも、これをお知らせをしておりますし、町ホームページでもただいまのようなことでやっております。それで、役場本庁舎、田浦基幹支所、各出張所、そういうところで閲覧、応募できるようになっておるわけであります。かなりですね、その場は広く設けておるというふうに思っております。また、特に田浦地区を中心に、毎年、地区座談会を実施しております。あるいは区長会等々でですね、御意見を賜っております。そういったものも参考にしながら、計画に盛り込んでおるという状況でございます。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　この第１の問題については、あと１点で終わりたいと思いますけれども、要するに町民視点の行政運営を行ってほしいという、この意見も明確に上がっておりますし、その対応としては町民視点の行政運営を行っていくため、現在、町民意識調査や事務事業評価などの行政評価に取り組んでいますという対応策が出ておりますけれども、それを具体的にですね、どう行政評価に取り組んでい

くのは、もうまちだよりと毎月発行される広報「あしきた」、この面でですね、町民に分かりやすいような表記をしていただければなあというふうに思いますし、町民もそういうふうに感じておられると思いますので、総務課所管におかれましては、そのような対応を是非是非してもらいたいというふうに感じております。

次に、第２の質問ですけども、念じれば救われるじゃないんですけれども、何とか私もこの海岸に住む人間として、いつも、名指しでごめんなさいですけれども、隣が井川財政課長でございますし、船も持っとる関係上ですね、漂着ごみについては、いつもそういう苦慮をしながらも、寄せたり、プラスチックごみとかスチロールごみとかは処理しておりますけれども、特にこの頃は河川の整備等もできまして、一気に流れるというのが現状でございますし、我が町だけじゃなくして、この海岸線を持つ１４の市町もですね、その苦慮はしておられるというふうに思いますし、潮によっては１か月近く堆積してですね、流れないのがあります。大潮の場合とか、風向きによって沖に流れるんですけれども、行く末はどうせ海底に沈むわけですよね。だから、その処理も、昨日ちょっと漁協関係者とお会いしましたけれども、県の方も海岸ごみの処理をやるからということで漁協にお願いをしてですね、理事会で取りまとめをするという、昨日の話でございましたけれども、そういうのをずっと思っておりましたら、やはり全国的にこういう５，９００万円という１１年度までの予算が組まれ、本町も今年度予算を見ますと、合わせて９２万円の予算が付いているのを確認はいたしました。全体像としてはそのくらいかなというふうには思いますけれども、やはり海苔の業者も１軒うちにはおりますし、そして海岸住民だけじゃなくして、やっぱり漁民の、この時だけじゃなくして、その１か月後、２か月後に漁業が成り立たない、網が破れたりとか、網を入れることができなかったりするのが多々あるのはもう日常茶飯事でありますので、それも県との協議の中で２月２日に担当課が出席されたということを確認しておりますし、その書類も後で見せてもらいたいなと、協議の内容も思いますけれども、やはり積極的に町長、会議が年に何回あるのか分かりませんけれども、担当課が出席するときには特にやっぱり我が町をという形で強くしてもらいたいというふうに思っておりますし、国の所管におきまして、熊本新港にですね、「はいき」というこの漂着ごみを処理する船がございます。それも県に確認して、担当は国なんですけれどもという形で１隻繋留されておるそうでございますので、特にこういうときにはですね、町長、そういう船もですね、要請してですね、処理するということも可能になるのではないかなというふうに思いますので、そういう旨の力強い答弁をいただきたいと思いますが。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　もう議員の思いと私の思いはまったく一緒であります。私も年に一度ないし二度ですね、海岸の漂着ごみ回収ボランティア作業に参加をしておりますが、種々雑多の漂着ごみを確認できます。そして、何とその量の多いことがですね。そしてまた、今度のこの法制定におきましても、日本列島全体の良好な海岸の景観と環境を保全しようということでありまして、国内から出る漂着物はもとよりでありますが、特に最近は外国からの、近隣のアジア諸国からの漂着物ですね、これの処理に頭を悩ませておるということでありまして、外交問題として大変難しい問題であります。この件につきましては、ただいま、ごみを集積するような専用船もある、そのことは私も知っております。大変難しいのは、要請をお願いしてですね、こちらに来たときには、たまたま大潮で大きな今度はまた潮があり、それが引いた後、何も残ってなかったというようなことで、自然相手のことでもございますし、大変難しい問題があります。それで、特にそれには臨機に対応してまいりますけれども、いわゆる川上、川中、川下ですね、こういった流域の方々等にもそういう問題意識をもっていただくように、今後もですね、啓発してまいりたいなと思っております。特に森林の切り捨て間伐等がございますと、これが大きい雨が来ますと流れ出すということ、そして行く先は海でありまして、やはり大きな影響もあるわけでございますから、流域全体、町全体、そしてこれはもう県・国全体、世界全体が一緒にならないと解決できない問題でありますが、我々としてはやるべきことはやっていくということをですね、ここで申し上げておきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　時間がまだありますので、あと１、２点、担当課の方にお尋ねいたしますけれども、担当係長がこの２月２日に参加されたということでありますが、どういう報告を受けられておられるでしょうか。具体的に、多分報告があっているというふうに思いますが、その経過でもいいですのでお答えいただければと思います。

○議長（藤井公明君）　田畑住民生活課長。

○住民生活課長（田畑一實君）　会議がありましたのが、２月８日でございまして、３０団体の構成になっているということでございます。先ほど、川尻議員、２５と申されましたけれども、数え方でひょっとすれば県あたりを一つという数えで表現してあるのかと思います。この協議会の事務は、都道府県の地域計画の作成をするために協議するということが一つ、それと海外漂着物対策の推進に係る連絡調整を行うということ、それとそれに必要な、推進に関して必要な事項を協議するというようなことが明記されておるというようなことで、今後、年２回程度の会議をするという中で、２月８日が第１回の発会式でございましたので、今後のスケジュールと

いたしますと、２２年度におきましてアンケート調査やら関係団体における現地調査を行い、平成２３年度におきまして処理計画を含めた地域計画を策定するというようなことを予定となっているということでございます。

以上でようございますでしょうか。

○議長（藤井公明君）　川尻君。

○１４番（川尻成美君）　併せてですけれども、この河川から流れ込む物ばかりじゃなくて、ご存じかと思いますけれども、河口で発生します、通称、我々は「ハビロ」という青い浮き草がありますけども、これがこの頃はあまり発生しないんですけど、多分天候とかいろんな腐葉土で発生すると思いますけれども、これが非常に固まりになって、浮き草になって、人間が赤ちゃんぐらいは乗っても沈まないような、湯浦川には発生します。それが流れると、もう必ずやっぱり網とかそういうのにも影響しますし、干潟に沈んで、貝が窒息死するというのをデータも出ておりますので、そういうのも併せてですね、それが発生した場合には迅速に処理するような感じで、やっぱり対応も進めていくという県の見解もございましたので、この湯浦川、佐敷川にもこういう状態がありますので、併せてそれもしっかりと受け止めていただければというふうに思いますので、その点、要望になりましたけれども、そういう形でしっかりとしたこの連携を取られまして、頑張っていただくことを望みまして終わりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　川尻君の質問を終わります。

次に、宮尾君。

○１０番（宮尾秀行君）　おはようございます。

議長の許可を得ましたので、一般質問を行います。

議員選挙も間近に迫り、議員の皆さんも何かと忙しいでしょうが、お互い体調を崩されないようにしていただきたいと願っております。

さて、昨年、国民の暮らしが第一と訴えた民主党が大勝し、鳩山政権が誕生しましたが、国民目線どころか、一般国民から考えれば想像もしがたいような金額の金の問題が噴出し、野党時代、自民党を追求して、きれい事を言っていた姿は見る影もありません。

そのような時代背景の中において、地方の現状はどうでしょう。町主催の地区座談会があります。私も議員という使命感があり、ほとんど欠かさず出席をしております。行政の現状を報告し、地区民の意見を聞くことにより、地域の今が理解できますが、先日、個人の用事である地区に出掛けました。寒風が吹きすさぶ黄昏時、デコポンの収穫を終え、家路に向かう車の中から、わざわざ降りてこられた老夫婦がデコポンを手に取り、「宮尾さん、見てください。今年はうんとなっとったばっ

てん、ちぎる前になって、水腐れでぼたぼた落ちてしまうとばい。」と言われ、畑に投げ捨てられ、「もう歳も９０も近かで、今年でしまいしまい。」と言って立ち去られました。家は密集している小集落ですが、空き家が目立つ地区でした。このときばかりは言いようのない寂しさを感じるとともに、どこにぶつけようもない脱力感を秘めた老夫婦の言葉は誠に日本の地方の現状であり、人が少なくなると数十年で地方はこんなにも疲弊してしまうのかと痛感させられた瞬間でありました。

昔も今も、若者は村の宝であり、またその中でも、農地を守り、食を作ったり、魚を捕ったり、農林漁業の後継ぎは貴重な存在ですが、現在は職業を問わず、結婚に消極的な若者が目立つように感じます。しかし、昨今は女性からの婚活ブームが広がり、職業の外見にこだわらず、男らしい頼りがいのある人を見つけたいという考え方が広がっているようです。それに比べ、男性は昨今、一部を草食系男子などと揶揄されながら、テレビゲームなどの架空の世界に没頭し、現実の苦難に立ち向かっていく力強さに若干欠けるところがあると考えております。何をするにも人の数が頼りで、活力の源であります。

そこで、今、芦北の自然の中で生まれ育ち、ふるさとを誇りに思い、力強く地元の職場で働く結婚適齢期を迎えた男女に結婚のきっかけとなる機会を与えてやることは行政の責務の一つになると思っておりますが、新年度より、そういう計画はないのかを伺いたいと思います。

壇上からは以上で、再質問は議席からといたします。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　宮尾議員の御質問にお答え申し上げます。

未婚化の問題につきましては、御案内のように、全国的にも今や顕在化した問題として取り上げております。そしてまた、未婚化の問題は、第一次産業の分野にとどまらず、広くこれが大きな課題として横たわっておるところでございまして、しかしながら、基幹産業であります農業の分野におきましては、やはり特に深刻な問題かと思っております。また、少子高齢化の時代にありまして、住民の定住化を図っていくことは、町の活力も高まるということから、平成２２年度から本町としてもこの問題に本格的に取り組むことと致したわけでございまして、その内容につきましては、担当課長より説明をさせたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　井川企画財政課長。

○企画財政課長（井川良一君）　平成２２年度から、企画財政課で取組みを予定しています結婚支援事業の概要について御説明いたします。

目的としましては、町内の独身男性に対して、結婚の機会の提供を行い、定住化促進に資することを目的としております。

内容でございますが、独身男性の情報把握が最重要となりますので、このために効果的に情報を把握するため、町内の各分野へのつながりを多くもっていらっしゃる方を、夫婦で定住アドバイザーとして委嘱をいたしまして、その方々を中心に独身男性の把握を行っていただこうと考えております。

また、定住アドバイザーの方には、その他にアドバイザー研修の受講、そしてイベントへの参加の促し、イベント後のフォローなどを行っていただくことを考えております。また、これはいわゆる婚活イベントなどの実務につきましては、専門的な知見が必要となってまいります。専門の業者へ委託することとしておりますが、内容としまして、婚活のイベントの企画運営、定住アドバイザーへの研修の実施、イベントに参加する男性へのコミュニケーションの研修の実施、イベントに参加した男女への後のフォロー、それからイベントに参加いただく女性の募集などを委託をすることといたしております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　宮尾君。

○１０番（宮尾秀行君）　ただいまのお答えによりますと、本年度からそういう企画をするということでありますが、昨今、テレビの中で葬儀会社の関係者の職員しか立ち会わないような一人葬儀とか、地域の連帯感の希薄化など、非常に田舎の良い面が薄れていく中で、行政も若者が地元に残り、結婚し、子どもを育てて定住をしていくということに関して、手をこまねいている時代はもう過ぎ去ったんじゃないかと思って質問をしたわけであります。

日本の将来を考えたときには、大変重要な問題と考えます。そこで、時代に即応したその企画をされていることは非常にいいことだと思いますし、是非事業の成功に向けて努力をしていただきたいと思っております。

その中で、今後の計画の中で恐らく話をされていくんだろうと思いますが、芦北町には立派な温泉施設、または公園、そしてうたせ船、心の教育をする星野富弘美術館、国の指定史跡の佐敷城跡など、大変観光地としても立派な場所がたくさんあるんじゃなかろうかと考えております。その観光ルートなども含めながら、話し合いをされていくんじゃなかろうかと思いますけれども、もしそういう話し合いの方向性があれば答えていただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　柳田農林水産課長。

○農林水産課長（柳田豊彦君）　農林水産課のサイドで具体的な事業がございますので御紹介をしておきたいというふうに思いますが、芦北町も所属をしております芦北町の振興局、普及所等が事務局をしております芦北地方農業振興協議会という中に担い手育成部会というのがございます。そこが４Ｈクラブと連携をいたしましてで

すね、本年も異業種の女性を呼んで、そば打ち体験でありますとか、甘夏の収穫体験というようなことをやっておりまして、平成２２年度はですね、御指摘がありました御立岬公園で県内各地の４Ｈクラブの会員と異業種の女性の方々を招いて交流会を行うという計画が進んでおりまして、農林水産課の方ではそれを側面的に支援をしながらですね、成功に向けて頑張っていきたいというふうに思っておりますので御紹介をしておきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　宮尾君。

○１０番（宮尾秀行君）　先ほどの観光ルートとかの話し合いの件でありますが、町長はどう考えておられますか。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　この結婚の機会の提供につきましては、やはり所管課のみならずですね、他の課、あるいは他の機関、組織ともですね、連携を取りながら、総合的に進めなければいけないと、そのように考えておりますので、それも２２年度４月１日からのですね、いろんなお知恵を借りながらのスタートになるわけでございますが、是非ですね、これを早く成果を出すように精一杯取り組んでまいりたいというふうに思いますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（藤井公明君）　宮尾君。

○１０番（宮尾秀行君）　この一般質問をする大きな理由といたしまして、私も昨年末、芦北町国際交流協会の方々と子ども１５名、総勢３１名でカンボジアに４校目の学校建設の贈呈式に携わってきたわけでありますけれども、昨今の日本の状況、あるいは若い人たちの状況を見てみますと、節度を超えた物品の贅沢だけを追い求めて、そういう社会になっているんじゃなかろうかと思っております。その現実の社会が今後も続いていくならば、生命の根幹に関わる第一次産業から恐らく衰退をしていって、近い将来、恐らく東南アジアからも追い越されてしまう現状が間近に迫っているんじゃなかろうかと思っております。

　カンボジアの経由地でありましたタイ王国の添乗員の方が、世界中で一番弱い人間は日本人だと、タイに来てもすぐお腹をこわしてしまうという話をされました。そして、先日、教育講演会の中で、鹿児島大学教育学部名誉教授の本町出身であられますが、山本清洋先生の話であります。０歳から３歳までの間に、体内に２００種類の雑菌を入れないと、大人になってから免疫力が低下をしてしまうというお話をされました。そういうことを考えたときには、やはり第一次産業を守るべく若い人たちが、この地元芦北に残って、婚活イベントの中で一人のカップルでもできれば、私は成功の域に入るんじゃなかろうかと思います。それを各分野から、観光は観光の分野、そして定住をするならば住宅の無償提供あるいは土地の紹介、そして

福祉関係ならば芦北町独自の子育ての支援、そういう方向で、今、町長が申されたように、各方面からすべての課長が、これは芦北町を救う、引いては日本国を救う、本当に考えなければならない問題として取り組んでいくべきだと私は考えております。

芦北町に結婚して住んで良かった、子どもをたくさん産んで良かったという町づくりのために、是非、芦北発、芦北が初めて、そして芦北町から発信する、この婚活のイベント等の取組みをして、きっかけづくりをされていっていただきたいということを強くお願いをいたして、質問を終わりたいと思います。

○議長（藤井公明君）　宮尾君の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

休憩　午前１０時５３分

再開　午前１１時０１分

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

最後に、岡部君。

○２０番（岡部恵美子君）　議長より一般質問の許可をいただき、ありがとうございます。

一般質問の通告をしましたものの、久々にこの席に着きますと、非常に緊張していますが、日頃、心に秘めていることを問いたいと思います。

それでは、通告にしたがいまして質問を行います。

かねがね、竹﨑町長におかれましては、合併に策定された新町建設計画に基づき、健全財政を堅持しながら、斬新的な発想のもと、後世に誇れる新未来を標榜され、その実現に向けて満身をもって御尽力されますことに対し、心から労いの言葉を申し上げます。

さて、私の質問事項は、１００年に一度という、かつてない経済不況にあえぎ、耐えに耐えている現状をいかに打開するかでありますが、これにはもちろんのこと、国策上、取り組まねばならないことは十分承知しているものの、身近なことであるがゆえ、本日通告しています湯浦温泉街の活性化にとどまらず、湯浦地域全体の問題として捉えていただきたいと思います。

まず、質問の第１点目は、湯浦温泉街の活性化についてであります。長い歴史をもち、泉質にも優れ、いにしえには他町村からの湯治客などで賑わった温泉街でありましたが、近時はまったくというほど客足は遠のき、寂しさが募るばかりか、疲弊すること、ひどいものです。地区の集会などでは、この温泉街の繁栄につながる

方策はないのかと口角泡を飛ばすこともしばしばであります。

そこで、考えられることは、現在のヘルシーパーク運営の一環として、隣の空き地を利用し、財政的な事情もあろうとは存じますが、竹﨑町長の決断力と構想力をもって、家族湯の新設と併せて宿泊施設の設置を強く願うものです。付け加えて申し述べますが、地区では湯浦活性化協議会が中心となって、湯浦地区全体の再生を真剣に討議を重ねられ、その一つの事業として、宝亀時代から温泉郷として知られた湯浦温泉で、やがて１３００年の歳月を迎えることから、湯浦地区全体を網羅して、温泉祭もしくは宝亀祭を行う計画も着々と進められているようであります。

不肖、私は日本身障連、九州身障連、熊本県身障連などの役職を仰せつかっていますが、時として各種大会の開催を芦北町でとの声を聞くとき、宿泊施設が整っていれば快くお受けし、したがって何某かの経済効果があるのではないでしょうか。

次に、第２点目は、温泉プールの利用の在り方について質問いたします。現在、全体とは申しませんが、大半の方々はスポーツ的な利用者ではないでしょうか。竹﨑町長は、スポーツ、文化の活動を奨励し、どこよりも元気なまちづくりを提唱されています。このことから考えますと、温泉プールを健康づくりの源と捉えると、温泉の効果は身体の機能を高めるとともに、特に足腰を鍛えることができ、安全性が保たれ、健康で長寿を願うものにとっては、温泉プールこそ健康づくりの最適な施設ではないでしょうか。健康であれば、医療費を抑制する要因でもあります。

私の質問の趣旨は、近隣市町村にない稀に見る貴重な良質温泉プールであり、有効活用の観点から、利用促進を図る目的をもって、広報活動と現在の利用者に対し、より利用度を高めるべく方策等をアンケート調査し、その結果を踏まえ、利用者の増加が叶えば、取りも直さず盤石な運営にもつながるものと思っています。

以上、２点について、竹﨑町長からの希望に満ちあふれた御所見を賜りたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹﨑町長。

○町長（竹﨑一成君）　岡部議員の御質問にお答えいたします。

湯浦温泉といえば、長い歴史をもち、質の高い温泉で知られていることは承知しております。現在では、温泉施設でヘルシーパーク芦北をはじめ、６か所となっています。旅館では１軒のみとなり、余暇活動の多様化、類似施設の増加等々により、低迷の状況下にあります。このような事態を打開するために、地元の活性化協議会もいろんなイベントをしかけており、期待をいたしております。

御質問の件に関しましては、問題点として、家族湯の設置の場合、湯量の確保がまず第一であります。現在、泉源地よりヘルシーパークのほか、温泉プール、きずなの里へ供給しているため、湯量不足が心配されます。

また、宿泊施設の整備におきましては、設備投資、ランニングコスト、需要動向などの問題もあります。これまで、ほかにいろいろと御提言もいただいておりますので、総じてこれらに検討を加え、見直していくということが必要かと思いますので、時間をいただきたいというふうに思います。

続きまして、温泉プールの利用者増についてのお尋ねでございますが、教育委員会の所管でございますので、そちらの方に委ねたいと思います。

○議長（藤井公明君）　竹浦教育長。

○教育長（竹浦裕道君）　岡部議員さんの御質問にお答えいたします。

お尋ねの温泉プール運営につきましては、現況、多くの町民の方々に御利用いただくために、小学生の水泳教室や、女性の方が主に参加をされますアクア教室、そしてまた水中ウォーキング教室など、８種の企画を立て、実行をいたしております。年間延べ人数２万１，２６１名となっております。今後さらに健康づくりにつながるメニューを考えてまいりますので、御提案・御指導いただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　岡部君。

○２０番（岡部恵美子君）　第１点の件につきましては、町長も質問の趣旨はお察しいただいたものと思います。現在、湯浦地区には、町長も申されましたように、宿泊可能な施設は１か所であります。収容する場所がない状況です。健全財政を堅持される竹﨑町長の指針はよく理解して尊重していますが、とにかく事情を御研鑽くださいまして、特段の御高配を是非お願いしたいと思います。湯浦地区の活性化のために実現できますことを願ってやみません。

湯量が足らないということは、そのようにおっしゃると思っておりましたが、新規に泉源を求めることはできないものでしょうか。お伺いいたします。

○議長（藤井公明君）　坂梨商工観光課長。

○商工観光課長（坂梨　優君）　泉源の件でございますけれども、現在、ヘルシーパークの泉源におきましては、１日６６トン、そのうち、現在ヘルシーパークに４５トン、温泉プールに９トン、きずなの里に１０トンという形で、ほぼ泉源１日の分を振り分けているという状況であります。そのほか余裕としてですね、温泉組合等の今後の問題もありますけれども、しかし前提で、また今後ボーリングをするということであれば、それだけの掘削なり、いろいろな設備投資も必要となりますので、今後十分、先ほど町長が答弁しましたように、時間をいただいて、今後そのような検討もしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　岡部君。

○２０番（岡部恵美子君）　ただいま課長からの御答弁いただきましたが、研究に研究を重ねていただきまして、よろしくお願いしたいと思っています。

それから、第２点目の件につきましても、教育長から御答弁いただきました。御理解いただいたと存じますが、人々の願いは健康でかつ長寿を願わない者はいません。類を見ない我が町が誇る温泉プールです。２万余の町民の健康維持を保つ観点から、是非、より多くの方々が利用する方策をとられることを願います。

どうか、今後とも湯浦の活性化につきまして、よく湯浦は遅れている、疲弊しておるということを耳にしますので、今回は久しぶりの質問でございましたけれども、どうか、２点につきましても御理解いただいたものと思っておりますので、くれぐれもよろしくお願い申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。御世話になります。

○議長（藤井公明君）　岡部君の質問が終わりました。

以上で一般質問を終わります。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　これで本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれにて散会します。

ご苦労さまでした。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

散会　午前１１時１５分

平成２２年第１回芦北町議会定例会議事日程（第３号）

平成２２年３月１２日
午前１０時　開　　会
於　　議　　場

１　議事日程

開会宣告

（一括議題＝日程第１４まで）

日程第　１　議案第１６号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について
日程第　２　議案第１７号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について
日程第　３　議案第　５号　平成２２年度芦北町一般会計予算
日程第　４　議案第　６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
日程第　５　議案第　７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算
日程第　６　議案第　８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算
日程第　７　議案第　９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算
日程第　８　議案第１０号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
日程第　９　議案第１１号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
日程第１０　議案第１２号　平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算
日程第１１　議案第１３号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
日程第１２　議案第１４号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第１３　議案第１５号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算
日程第１４　陳情第　１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について
日程第１５　発議第　１号　永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書案
日程第１６　発議第　２号　「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書案
日程第１７　発議第　３号　芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

（一括議題＝日程第１９まで）

日程第１８　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査の申出
日程第１９　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出

（閉　会）

2　出席議員（１９人）

２番　宮　内　道　則　君	３番　古　村　逸　男　君
５番　白　坂　康　浩　君	６番　草　野　安　道　君
７番　前　田　徹　一　君	８番　荒　川　臣　六　君
９番　元　山　秀　志　君	10番　宮　尾　秀　行　君
11番　平　松　洋　一　君	12番　市　川　信　作　君
13番　釜　　信　一　君	14番　川　尻　成　美　君
15番　白　窪　　泉　君	17番　川　野　　眞　君
18番　水　口　宣　之　君	19番　大　丸　清　光　君
20番　岡　部　恵美子　君	21番　寺　本　修　一　君
22番　藤　井　公　明　君	

3　欠席議員（０名）

4　説明のため出席した者の職氏名（１７人）

町　　長	竹　﨑　一　成　君	副　町　長	藤　崎　正　司　君
教育委員長	本　山　　嵩　君	教　育　長	竹　浦　裕　道　君
政策審議員兼 総　務　課　長	内　山　忠　美　君	政策審議員兼 企画財政課長	井　川　良　一　君
田浦基幹支所長	迫　本　文　雄　君	税　務　課　長	農　中　　豊　君
住民生活課長	田　畑　一　貫　君	商工観光課長	坂　梨　　優　君
福　祉　課　長	大　岩　憲　治　君	農林水産課長	柳　田　豊　彦　君
建　設　課　長	竹　田　茂　幸　君	上下水道課長	山　本　正　博　君
教　育　課　長	永　田　光　洋　君	生涯学習課長	中　原　豊　徳　君
会計管理者兼 会　計　室　長	川　尾　敏　浩　君		

5　職務のため出席した事務局職員の職氏名（２人）

議会事務局長	福　山　勝　廣　君	次　長（係長）	岡　田　謙　治　君

開議　午前１０時００分

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

◯議長（藤井公明君）　おはようございます。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の日程は、お手元に配付しております議事日程のとおりであります。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第　１　議案第１６号　芦北町まちづくり振興基金条例の制定について
日程第　２　議案第１７号　芦北町大関水販売運営基金条例の制定について
日程第　３　議案第　５号　平成２２年度芦北町一般会計予算
日程第　４　議案第　６号　平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算
日程第　５　議案第　７号　平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算
日程第　６　議案第　８号　平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算
日程第　７　議案第　９号　平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算
日程第　８　議案第１０号　平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算
日程第　９　議案第１１号　平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算
日程第１０　議案第１２号　平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算
日程第１１　議案第１３号　平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算
日程第１２　議案第１４号　平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第１３　議案第１５号　平成２２年度芦北町水道事業会計予算
日程第１４　陳情第　１号　道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について

◯議長（藤井公明君）　日程第１、議案第１６号「芦北町まちづくり振興基金条例の制定について」から日程第１４、陳情第１号「道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入について」までを一括議題とします。

それでは、定例会初日に各常任委員会に付託しておりましたので、委員長に報告を求めます。

質疑は、各委員長報告が終了した後、一括して行います。

はじめに、白窪総務常任委員長。

◯総務常任委員長（白窪　泉君）　おはようございます。

総務常任委員長報告を申し上げます。

総務常任委員会に付託されました案件につきまして、委員会における審査の経過並びに結果について御報告を申し上げます。

本委員会に付託されました案件は、予算関係１議案、条例関係２議案でございます。

まず、条例の審査から申し上げます。

議案第１６号、芦北町まちづくり振興基金条例の制定についての審査を申し上げます。この条例は、合併新町のまちづくり振興に資するソフト事業の財源とする基金を造成するために条例を制定するものであると説明がありました。

主な質疑として、まちづくり振興基金とふるさとづくり基金制度の違いは何かとの質疑に対して、ふるさとづくり基金は主に民間団体活動への支援であるが、まちづくり振興基金は町のソフト事業全般に活用できる財源を確保するための基金であるとの答弁でありました。

議案第１６号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１７号、芦北町大関水販売運営基金条例の制定についての審査を申し上げます。この条例は、大関水販売の事務負担の軽減や付加価値の向上に資することを目的として、販売・運営の基金化に係る条例を制定するものであると説明がありました。

主な質疑として、基金収益の活用方法とは何かとの質疑に対して、「真っ清水」の販売は町のＰＲを目的としているが、収益が出た場合は一般会計に繰り入れて、環境保全事業の特定財源として充当することを考えているとの答弁でありました。

議案第１７号につきましても、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第５号、平成２２年度芦北町一般会計予算について申し上げます。平成２２年度一般会計予算総額は、前年度比０．１％増の９４億５，５００万円となっており、地方交付税は地方財政計画の中で既定の加算とは別に約１兆円増額されたことにより２．３％増の４４億円が見込まれております。

以下、審査過程において論議されました主なものについて申し上げます。

まず、議会事務局では、議員定数が２２名から１６名に減少することから、対前年比２，２３３万８，０００円の減額予算となる説明がありました。

総務課では、行政組織の見直しと定員適正化に努め、簡素で効率的な行政組織体制の整備や人事評価制度の効率的な運用と適切な人事管理を図るため、引き続き評価者及び職員研修の実施が計画されております。

また、消防費では、常備消防の支援のほか、新たに消防団員ＯＢによる機能別団員制度導入のための経費が計上されております。

主な質疑として、消防費の機能別団員制度とは具体的にどのような制度かとの質疑に対して、サラリーマン団員の増加等による昼間の消防力の低下を補うため導入するもので、６５歳以下の消防団経験者で、居住地の消防団に所属し、管轄区域内で発生した火災のみ出動し、火災以外は出動せず、基本的に平常時の分団活動への

参加の必要はないものである。当初の導入地域は、行政区別の団員数、就業地、消防署からの距離が概ね１０キロメートル以上であることを勘案し、９地区を予定しているとの答弁でありました。

企画財政課では、海外自治体職員を研修生として招聘する自治体職員協力交流事業や、ふるさとづくり基金運用事業の実施が昨年同様に計画され、新たな事業としてスクールバス実証運行、結婚支援事業などが予算計上されております。

主な質疑として、結婚支援事業の計画はどうなっているかとの質疑に対して、定住化促進を目的に、町内男性と町外居住の女性参加のイベント、男性及び定住アドバイザーの研修を計画していること、また定住アドバイザーの選定方法などの説明があり、委員から１組でも成立するよう努力してほしいとの意見がありました。

基幹支所については、地域活性化センターの増設分に係る光熱水費の電気料の増額と、庁舎屋根の防水修繕費、空調設備の取替修繕費などが新たに計上されております。

主な質疑としては、電気料増額の具体的な要因は何かとの質疑に対して、基幹支所の電気料は活性化センターを含めて１契約であり、基本料金部分については基幹支所予算で計上することになっており、今回、活性化センター増設により基本料金が上がるため、増額になったとの答弁でありました。

税務課では、歳入について平成２２年度町税の総収入額は１４億６，７１６万７，０００円で、前年度対比８，７２８万８，０００円の減が見込まれ、固定資産税については基本的には大きな変動はなく、宅地の負担調整による増加見込みを加味して算出しております。

歳出については、経常的経費と徴収関係で滞納整理事務用の総合行政システム改修費が計上されております。

主な質疑として、個人町民税や法人町民税の減額の原因は何かとの質疑に対して、法人町民税については、経済不況の影響を受け、企業業績の悪化によるものが大きく、個人町民税については、人口の減少や給与所得者の減少が主な原因であり、今のところ、税収の上昇の要素が見当たらないという答弁でありました。

また、総合行政システム改修のメリットは何かとの質疑に対しては、税の滞納情報等に対し、記録・管理機能をより強化することで、収納率の向上と収納における時効の管理情報等をより正確に把握でき、適正な処理ができる電子計算システムの改修であるとの答弁でありました。

地籍調査室については、２２年度の事業として、立川・吉尾地区の成果閲覧、大岩地区の測量工程、永谷地区を含む黒岩・上原地区の一筆調査が行われる予定です。

以上が論議されました主な内容でありますが、議案第５号につきましては、質疑終了後、討論もなく、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

以上で、総務常任委員会に付託されました事件の審査経過と結果報告を終わります。

○議長（藤井公明君）　次に、荒川建設経済常任委員長。

○建設経済常任委員長（荒川臣六君）　おはようございます。

建設経済常任委員長報告を申し上げます。

建設経済常任委員会に付託されました案件のうち、予算関係６議案、陳情１件について、本委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

はじめに、議案第５号、平成２２年度芦北町一般会計予算について申し上げます。

まず、建設課では、湯南団地外壁屋根改修工事について、今年度以降の計画はどうなっているかとの質疑に対し、４棟ずつ改修しており、平成２８年度完了予定であるとの答弁でありました。

上下水道課では、飲料水供給施設事業費補助金について、今回の交付地区と事業内容はとの質疑に対し、高岡南及び上白木地区に交付し、両地区とも管路改修を行うとの答弁でありました。

商工観光課では、温泉掘削適地調査業務の目的はとの質疑に対し、旧ブルーマリンあしきたの再利用に関し、温泉は不可欠であるとの認識及び海浜総合公園への利活用を視野に入れ、今回調査を行うとの答弁でありました。

また、委員から、各観光施設が右肩下がり傾向にあるため、その打開策として海浜総合公園、大野温泉センター、肥後うらら等、各施設の連携を強化し、観光振興を図ってはどうかとの発言がありました。

農業委員会では、特定農地貸付け事業において、今年度新たに八幡地区で１０区画貸付けを行う予定であるとの説明がありました。

農林水産課では、平成２２年度から中山間地域等直接支払事業に関して、これまでの制度との違いはとの質疑に対し、基本的に変更はないが、高齢者の農地を守ることや面積基準の緩和がなされたとの答弁でありました。

また、船揚げ施設利用促進事業補助金の事業概要はとの質疑に対し、漁協管理の船揚げ施設で、船揚げ１回につき５，０００円の補助を行うとの答弁でありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第５号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第９号、平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算について申し

上げます。

今年度は、花岡浄水場で集中監視設備更新工事を行うため、簡易水道事業分の負担金を水道会計に支出するとの説明がありました。

以上、説明後は質疑・討論もなく、議案第９号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１０号、平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について申し上げます。

花岡東地区の大幅な減額については、前年度計上の高速道路建設による県道切り回し工事関係の減によるものと説明がありました。

以上、説明後は質疑・討論もなく、議案第１０号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１１号、平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について申し上げます。

維持管理費の増額については、湯南団地の基数増が主な原因であるとの説明がありました。

主な質疑として、維持管理委託については毎年入札を行っているかとの質疑に対し、毎年実施しているとの答弁でありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第１１号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１２号、平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算について申し上げます。

主な質疑として、計石温泉センターの修繕料の内容はとの質疑に対し、脱衣室の天井改修と冷暖房機器設置を予定しているとの答弁でありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第１２号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１５号、平成２２年度芦北町水道事業会計予算について申し上げます。

主な質疑として、集中監視設備を更新することで、どのような利便性があるかとの質疑に対し、浄水場や各施設のほか、田浦地区の５か所の簡易水道施設を一括監視することで、施設管理の効率性が高まるとの答弁でありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第１５号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

最後に、陳情第１号、道川内乙千屋川河川道路（生活道路）の町道編入についてを申し上げます。

本件は、道川内西行政区長　立丸一廣氏ほか５名より提出されたものですが、生活道路から町道への編入を求めるものです。

現地調査後、審査を行いましたが、委員から町道認定しなくても生活に支障はないのではないか、また用地、境界等、解決すべき問題があるのではないか等の意見があり、慎重審議する必要があると判断し、陳情第１号につきましては、全会一致で継続審査すべきものと決しました。

以上で、建設経済常任委員会に付託されました事件の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（藤井公明君）　最後に、宮尾文教厚生常任委員長。

○文教厚生常任委員長（宮尾秀行君）　おはようございます。

文教厚生常任委員長報告を行います。

文教厚生常任委員会に付託されました案件につきまして、委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

本委員会に付託されました案件は、予算関係６議案でございます。

まず、議案第５号、平成２２年度芦北町一般会計予算について、審査過程において論議された主なものについて申し上げます。

福祉課では、民生費の中で、昨年までの児童手当から子ども手当の政策により、１億５，４００万円以上の増となり、民生費総額で２億５，０００万円以上の増額予算となっております。

現在、老人ホームの運営において、民営化についての進捗状況はどうかとの質疑に対し、昨年の１０月に検討委員会を設置して、既に３回の会議を開催しているとの答弁でありました。

住民生活課では、黒埼霊苑の使用料についての申込状況と相談件数等の質疑に対し、今年度は３基の予定で予算計上し、残りが５７基という答弁を受け、１区画が３０万円ということに対し、価格の相談はないかとの質疑に対し、場所の相談はあるが、価格の相談は受けていないとの答弁でした。

また、海岸の漂着物の予算は１００％県補助かという質疑に対し、県の基金を取り崩して２１年度から３年間補助してもらうもので、補助金の要望は３００万円程度しているとの答弁がありました。

教育課では、教育指導費の中で学校ＩＣＴ支援員委託料についての質疑に対し、インストラクター２名１組で各学校を巡回して、ノウハウを指導する予算であるとの答弁でした。

また、学校統廃合については、計石小については２４年度統合に向けて説明を始めるということ、さらに吉尾小については今のところ厳しい状況であるとの答弁で

した。

施策方針と予算大綱説明の中で、平成２４年度からの武道の必須化の構想についての質疑に対し、柔道、剣道、相撲の種目については、条件なしで取り組めるが、ほかの種目については要件をクリアすることが必要であるとの答弁でした。

生涯学習課では、ジョギングフェスタについての質疑には、旧田浦町でスタートしたイベントで、春から秋の大会に変更し、ＪＫＡトレジャークラブの主催事業として実施してきたが、近年、参加者が極端に減少してきたことに加え、開催続行が難しい旨の申し出があり、今年度は廃止した。しかしながら、今後は岩崎グラウンドを活用した新しいイベントを計画したいとの答弁でありました。

また、温泉プールの利用状況についての質疑に対し、常時、小学生と一般が利用して、特に夜間は満杯であるということ、歩行教室等の効果が出ているということ、さらには今後、他町村も視察しながら新しい計画をしたいとの答弁でありました。

また、学校支援地域本部事業について、高い評価を受けているにも関わらず、平成２２年度で終わるのか、継続はしないのかとの質疑に対し、モデル事業としては３年間で終了する。しかし、教育事務所と協議して、継続できるように努力したいという答弁でありました。

以上、質疑終了後は討論もなく、議案第５号については、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第６号、平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について申し上げます。

主な質疑は、直営診療施設勘定において、報償費の臨時医師謝金が昨年度に比較して大幅に減額しているがとの質疑に対し、昨年度は月曜日から土曜日までの診療だったが、今年度は火曜、木曜、土曜の３日間の診療となることから減となったという答弁でありました。

以上、議案第６号については、質疑終了後は討論もなく、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第７号、平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計について申し上げます。

老人保健事業は、医療制度改革により、平成２０年４月から後期高齢者医療制度に移行しています。特別会計は平成２２年度で終了となりますが、予算については前年度の支給状況により、前年度医療給付費の３％と推計し、３０万円が計上されております。

以上、議案第７号については、質疑及び討論もなく、全会一致で原案のとおり可

決することに決しました。

次に、議案第８号、平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算について申し上げます。

予算総額は１８億７，９３０万円で、２１年度より７，８６０万円の増となります。

増額の主な理由として、地域密着型介護サービス給付費に係るもので、グループホーム２か所、有料老人ホーム１か所及び認知症対策型通所介護施設１か所の設置に伴うものであります。

保険給付費の伸びについての質疑に対し、第４期介護保険事業計画を作成する中で、３年間を見越して設定しているとの答弁でありました。

以上、議案第８号については、討論もなく、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１３号、平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について申し上げます。

予算総額は２，３３０万円で、対前年比１５０万円の減となっております。これは大学生の継続貸付人数の減によるものであります。

以上、議案第１３号については、質疑及び討論もなく、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

次に、議案第１４号、平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について申し上げます。

予算総額２億６，８７０万円を措置し、２，５２０万円の増額予算となっております。

平成２５年４月を目途に、新制度発足の方向性が打ち出されておりますが、新制度創設に伴う周知等、地域住民の方々に混乱を招くことがないよう適切な事務処理に努めるという説明がありました。

以上、議案第１４号については、質疑・討論もなく、全会一致で原案のとおり可決することに決しました。

以上で、文教厚生委員会に付託されました事件の審査経過と結果の報告を終わります。

○議長（藤井公明君）　委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を一括して行います。質疑はありませんか。大丸君。

○１９番（大丸清光君）　２点だけお伺いいたします。

先ほど、総務委員長の報告の中で、機能別消防団員制度の導入がなされておりま

す。この件につきまして、委員長よりも総務課長の方が詳しいと思いますので、総務課長に中身の内容が、私、所管ではございませんので、はっきり分かりません。私が一番心配しているのが、既存の消防団、この機能別消防団ができた場合に、いざ非常事態が発生した場合に、権限といいますか、優先順位、トラブル等の問題もあるだろうと思います、消火するにあたり。そういったこともあるし、またその消防団離れで、自分は消防団に入らずに、機能別消防団に入るというような話も若干聞きました。そういうことで、今後、その既存の消防団と機能別消防団員の今後のやり方ですね、そういうことにつきまして、ちょっと総務課長の方から詳しく説明をしていただきたいと思っております。

そして、２点目はですね、町長の提案理由の説明の中で、私、広域の消防費の予算の計上の問題で質問いたしました。総務委員会の場で、この問題の点につきまして協議がなされなかったのか、質問がなされなかったのか、この件につきまして２点だけ、２つとも総務課長の所管だろうと思いますので、委員長よりも総務課長の方が詳しいと思いますから、総務課長の方にお伺いいたします。

○議長（藤井公明君）　大丸君、今の件につきましては、委員長報告でございますので、委員長に対しての質疑しかできません、原則としては。

○１９番（大丸清光君）　はい。御無礼いたしました。じゃあ委員長の方より、先ほど質問しました中身の説明を一つ伺いたいと思います。あまり詳しく中身がご存じないようでしたらば、総務課長の方から、再度補足して説明をしていただきたいと思います。よろしく、総務委員長、お願いします。

○議長（藤井公明君）　大丸君、直接、総務課長にはお尋ねできませんので、総務委員長に質疑をして、それから総務課長がですね、詳細の答弁でありますと、議長の許可を得て、執行部が答弁することはできます。

○１９番（大丸清光君）　最後の辞め組ですので、総務委員長に花をもたせまして、総務委員長の方から説明をお願いいたします。

○議長（藤井公明君）　白窪総務委員長。

○総務常任委員長（白窪　泉君）　大丸議員の質問にお答えします。

機能別消防団員というのは、６０から６５歳までが入られるわけでございまして、そしていざ火災が起きたときには、消防団員が駆け付けるまでは時間がかかるし、その間にその機能別消防団員という方が仕事をするということでございまして、これは詳細にわたってはですね、総務課長よりも説明をお願いしたいと思います。

それからですね、広域の消防については、質問は出ませんでした。

以上です。

○議長（藤井公明君）　広域行政の消防費につきましては、議論がなされておりませんので、ここで報告はできません。あくまでも委員長報告に対しての質疑のみでございますので。特別に議長の裁量によりまして、総務課長の答弁を許します。内山総務課長

○総務課長（内山忠美君）　それでは、大丸議員の質問にお答えをいたしたいと思います。

この機能別消防団員につきましては、目的といたしまして、過疎化・高齢化が進展します中に伴います、年々、消防団が減少しております。合併時に大体７３２名、消防団員を有しておりましたが、現在では９６名減の６３６名でございます。

そういった中で、居住地から離れて、町内外に勤務するサラリーマン等々も増加しております。地域によっては積載車とか小型ポンプ車等の機材があっても、消防団員がいないという状況が続いております。消防車が到着するまで消防活動ができないというのが現状の地域もございます。

それらを踏まえまして、特に昼間の火災が起きましたとき、機動的に対応できる消防力を確保するため、火災の消防活動を限定いたしまして、消防団ＯＢによります機能別団員の制度を導入するということでございます。

任務につきましては、居住地の各分団に属しまして、その地域内の発生した火災において消火活動を行うということでございます。

身分といたしましては、機能別団員の身分といたしまして、団員として階級は異動いたしません。上にはあがっていきません。普通の一般団員と同じでございます。

任命要件といたしましては、先ほど話がございましたように、元消防団員で５年以上の経験を有すると。年齢が６５歳以下ということをうたっております。大体、最大で芦北町で２４名程度を計画しておりますが、今回は１８名程度の計画でおります。

その他処遇等につきましても、報酬とか費用弁償等々も計画をいたしております。火災等に出動しましたときの公務災害等も機能別消防団に入りましたら保障されるようになっております。また、被服等の支給についても、ヘルメット、安全靴等々、作業服等を支給する計画でございます。

今、うちで計画しております１０キロ以上離れた地域ということで、９地区を大体２名程度、計画をいたしておりますが、その地域が一つの地域が井牟田１．２、波多島地区を一つですね。それから横居木地区でございます。もう一つが古石北、南、それから丸山、米田、それから大野の市野瀬からですね、大野、国見、塩浸を１地区と計画しております。天月、白木、白石、西告、東告を１地区として２名程

度ですね。それから、吉尾地区がもう全般です。立川から市居原、上原等々まで含まれて、９地区に分けて計画いたしております。

以上でございます。

○議長（藤井公明君）　大丸君。

○１９番（大丸清光君）　私が質問いたした趣旨は、大体、消防団離れ、俺はもう消防団よりも機能別の方に入るというような傾向もあるかと思いますので、そういうことを懸念して質問したわけでございます。そして、２点目が火災発生時に現場で機能別消防団と既存の消防団、優先順位といいますか、権利といいますか、そういう問題で消火時に両方でトラブルが発生しないかというようなことも思いましたので、この件につきまして質問をしたわけでございます。

これをもちまして、白窪議員共々、最後の議会活動を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（藤井公明君）　ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　これで質疑を終わります。

これから議案第１６号から陳情第１号までを順次、討論を行い、採決します。

議案第１６号、芦北町まちづくり振興基金条例の制定について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１６号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１６号は原案のとおり可決されました。

議案第１７号、芦北町大関水販売運営基金条例の制定について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１７号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１７号は原案のとおり可決されました。

議案第５号、平成２２年度芦北町一般会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第５号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第５号は原案のとおり可決されました。

議案第６号、平成２２年度芦北町国民健康保険事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第６号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第６号は原案のとおり可決されました。

議案第７号、平成２２年度芦北町老人保健事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第７号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第７号は原案のとおり可決されました。

議案第８号、平成２２年度芦北町介護保険事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第８号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第８号は原案のとおり

可決されました。

議案第９号、平成２２年度芦北町簡易水道事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第９号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第９号は原案のとおり可決されました。

議案第１０号、平成２２年度芦北町農業集落排水事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１０号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１０号は原案のとおり可決されました。

議案第１１号、平成２２年度芦北町生活排水処理事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１１号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１１号は原案のとおり可決されました。

議案第１２号、平成２２年度芦北町有温泉事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１２号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１２号は原案のとおり可決されました。

議案第１３号、平成２２年度芦北町奨学資金貸付事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１３号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１３号は原案のとおり可決されました。

議案第１４号、平成２２年度芦北町後期高齢者医療事業特別会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１４号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１４号は原案のとおり可決されました。

議案第１５号、平成２２年度芦北町水道事業会計予算について討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから議案第１５号を採決します。お諮りします。委員長報告は原案可決であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、議案第１５号は原案のとおり可決されました。

これから陳情第１号を採決します。お諮りします。委員長報告は継続審査であります。委員長報告のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、陳情第１号は委員長報告の

とおり継続審査とすることに決定しました。

ここで暫時休憩します。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

休憩　午前１０時４３分

再開　午前１０時５０分

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

◯議長（藤井公明君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

－－－－－－－－◯－－－－－－－－

日程第１５　発議第１号　永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書案

◯議長（藤井公明君）　日程第１５、発議第１号「永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書案」についてを議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。白窪君。

◯１５番（白窪　泉君）　発議第１号、平成２２年３月１２日。芦北町議会議長、藤井公明様。提出者、芦北町議会議員、白窪泉、賛成者、芦北町議会議員、荒川臣六、賛成者、芦北町議会議員、宮尾秀行。

永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書案。

上記の議案を、別紙のとおり芦北町議会会議規則第１３条の規定により提出します。

提案理由。新聞報道等によると、政府は今通常国会において、永住外国人に地方参政権を付与する法案を提案する旨の報道がなされております。

この問題は、地方にとって非常に大切な問題であることは言うまでもありません。この法案を国会で十分な議論をすることなく、拙速に法案を成立させることは、地方の意思を無視した暴挙といえるものであり、国民の重要な問題として議論し、国民の意見を集約した上で判断すべき重要な問題であります。

よって、国に対して、拙速な判断で永住外国人への地方参政権付与を法制化されないよう要望し、意見書を提出するものです。

以上です。

◯議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

◯議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから発議第１号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、発議第１号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１６　発議第２号　「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書案

○議長（藤井公明君）　日程第１６、発議第２号「「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書案」を議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。白窪君。

○１５番（白窪　泉君）　発議第２号、平成２２年３月１２日。芦北町議会議長、藤井公明様。提出者、芦北町議会議員、白窪泉、賛成者、芦北町議会議員、荒川臣六、賛成者、芦北町議会議員、宮尾秀行。

「ヒロシマ・ナガサキ議定書」のＮＰＴ再検討会議での採択に向けた取り組みを求める意見書案。

上記の議案を、別紙のとおり芦北町議会会議規則第１３条の規定により提出します。

提案理由。広島市及び長崎市は、原爆による悲劇が二度と繰り返されてはならないとの信念のもと、都市と都市との緊密な連帯を通じた核兵器のない平和な世界の実現を目的に、「１９８２年　平和市長会議」を設立し、世界の都市との連携を図りながら、核兵器廃絶に向けた取り組みを展開しており、こうした活動の中、２０２０年までに核兵器を廃絶するための具体的な道筋を示した「ヒロシマ・ナガサキ議定書」が２０１０年のＮＰＴ再検討会議で採択されることを目指しています。

よって、国に対して、「ヒロシマ・ナガサキ議定書」の採択に向け、核保有国をはじめとする各国政府に働きかけていただくよう要請し、意見書を提出するものです。

以上です。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから発議第２号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、発議第２号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１７　発議第３号　芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（藤井公明君）　日程第１７、発議第３号「芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について」を議題とします。

本案について、趣旨説明を求めます。白窪君。

○１５番（白窪　泉君）　発議第３号、平成２２年３月１２日。芦北町議会議長、藤井公明様。提出者、芦北町議会議員、白窪泉、賛成者、芦北町議会議員、荒川臣六、賛成者、芦北町議会議員、宮尾秀行。

芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について。

上記の議案を、別紙のとおり地方自治法第１１２条及び芦北町議会会議規則第１３条第２項の規定により提出します。

提案理由。芦北町議会議員定数条例の制定に伴い、各常任委員会の定数を減ずる必要があるので、この議案を提出するものです。

芦北町議会委員会条例の一部を改正する条例。

芦北町議会委員会条例（平成１７年芦北町条例第１６５号）の一部を次のように改正する。

第２条第１号中「８人」を「６人」に、同条第２号中「７人」を「５人」に、同条第３号中「７人」を「５人」に改める。

第４条第２項中「７人」を「６人」に改める。

附則、この条例は平成２２年４月１日から施行する。

以上です。

○議長（藤井公明君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。討論ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　討論なしと認めます。

これから発議第３号を採決します。お諮りします。本案は原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、発議第３号は原案のとおり可決されました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

日程第１８　建設経済常任委員会の閉会中の継続審査の申出

日程第１９　議会運営委員会の閉会中の所掌事務調査の申出

○議長（藤井公明君）　日程第１８から日程第１９までの各委員会の閉会中の継続審査及び調査の申出を一括議題とします。

お諮りします。

各常任委員長から、お手元に配付の申出書のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに御異議ありませんか。

［「異議なし」と呼ぶ者あり］

○議長（藤井公明君）　異議なしと認めます。したがって、各委員長から申出書のとおり、閉会中の継続審査及び調査とすることに決定しました。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

○議長（藤井公明君）　これで本日の日程はすべて終了しました。

会議を閉じます。

平成２２年第１回芦北町議会定例会を閉会します。

ご苦労さまでした。

－－－－－－－－○－－－－－－－－

閉会　午前１１時００分

地方自治法第１２３条第２項の規定によりここに署名する。

芦北町議会議長

署名議員

署名議員